明治三十六年八月二十三日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百六拾五號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

婦人衛生雜誌

第百六拾五號　目次

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を研き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相待て起り婦人も社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演説談話を聽き互に相研究し併之を纂記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに裨すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則（明治廿二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ兼て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の際は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（尙付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は相續知友より報知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は每年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を常理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る

幹事の分課を設け第一會計　第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外に會員中より臨時指名委員を設くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會す總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會し須要の事項を談話するものとす

第十七條　例會には學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を除く總て傍聽せしむるを得（但衣服は總て質素たるべきこと）

第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとす議定は總て多數決とし可否同數なるときは會長之を決するものとす

第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算并に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受けて支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せざる樣起案すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して出願すべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することなし支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し例會に於ける衛生上の講義演説談話等の筆記及內外雜報本會の諸報告等を掲け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき又同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し謝

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし(郵券送一錢)第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局(牛込局宛)振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の體害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは忠告することあるべし第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子
(いろは順)
幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穂子
仝　松平芳子
仝　三浦敦子
評議員　伊集院しげ子
仝　石川貞子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　四[illegible]升子
仝　穂積歌子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山鍋子
仝　子爵夫人　田中いよ子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　川村きよ子
仝　相島陸子
仝　男爵夫人　南部陽子
仝　中濱芳子
仝　伯爵夫人　松平充子
仝　子爵夫人　松平正子
仝　子爵夫人　松平久子
仝　小堀小ゆり子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本榮子
仝　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

本會特別賛成員

(●は本會に於て講演せられし諸氏)

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
地方視學官　●色川圀士君
醫學士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
[illegible]　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　●秋原彌四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
衛生局長　●長谷川泰君
新潟　●長谷川一詮君
小兒科　小原賴之君
醫學士　●林春雄君
醫學士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君

步兵少佐　●堀内文次郎君
醫學博士　●土肥慶三君
醫學博士　●岡田和一郎君
醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　●大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　●加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　川上雅重君
ドクトル　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寬君
法學博士　高木豊三君
醫學士　●川代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟病院長　高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學博士　●高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　米山彦郎君
三等軍醫正　星野保光君
醫學士　●宮本叔君

一等軍醫　横井忠岡君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部甕男君
藥學博士　●長井長義君
新潟　長井千幹君
醫學博士　●中濱東一郎君
新潟　中村勇三郎君
醫學士　村松秋三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山山鐵三君
醫學士警視廳第三部長　●山根正次君
[illegible]　山川春二君
醫學士　●丸茂文良君
衛生試驗所技手　●丸山長四郎君
松山病院　松山棟庵君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉質君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顯君
衛生局長　●後藤新平君
帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寬君
ドクトル　●新井古芳君
新潟　阿部玄四郎君
高崎醫會長　土谷全次君
産科婦人科　●水原漸君

ドクトル　●久保川誠勝君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　淺田次君
ドクトル　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山汝六君
高崎　秋田聰太郎君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　●佐井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君
ドクトル　●榊順次郎君
醫學士　●榊保三郎君
醫學士　櫻井恂次郎君
醫學士　●北村精造君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學士　●木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學士　●三輪信太郎君
新潟　水野欽君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●須田卓爾君
●ミス、ヒユース
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　波多野博君
醫學博士　●吳秀三君
八王子　和田錢貫君



耳鼻咽喉科專門醫學博士岡田和一郎君

婦人衛生雜誌第百六拾五號
（明治三十六年八月二十日發行）

演説

●遺傳と眼病との關係

ドクトル　須田卓爾君
佃演記事務所員　速記

御約束に從ひまして今日は遺傳と眼病と云ふことに就て一寸申上げやうと思ひます、それに就きまして多少の豫防法、それから治療法のことも附加へて少し御話致します

此遺傳と云ふことは極く廣い意味でございまして、御承知の通り兩親が總てのものを子供に與へる、子供は總てのものを兩親から受ける、斯う云ふ意味でございます、例へば父の容貌と云ふもの、又性質と云ふもの、それから筋肉の發育の工合から、又は畸形、畸形と申しまするは一種の不具でございます、發育不全と云ふやうなこと、或は其兩親の癖までも子供が承繼ぐのであります、此遺傳のことは能く廣く考へて見まするとなか〳〵面白い結果を現して參ります、例へば其子供が能く父親に肖て居るのがあり、又母親にそつくりな者もあります、又其性質としても、父の性質を受けるのもあり、或は又母の性質に肖て居る者もあります、又兩方の長所のみを取つて殆ど完全に近い性質を備へて居る子供もあります、又それに反して兩方の短所ばかり取つて殆ど人の性質も具へない亂暴狼藉な者も出來まする、或は精神の障害を起して白痴と云ふやうな程度の低い者も生れるやうなことになつて居ります、是等は大抵兩親の教育及性質等に大關係を有つて居るのでありますけれども、亦其多數は兩親の疾病、が基を成すのであります、殊に病氣が此原因を爲すものでありましたならば、是は必ず吾々の力で人工的に即ち衛生とか豫防とか云ふもので充分に之を取除くことが出來

やうと思ひます、それから又病氣のみならず智育情慾意思、即ち智情意の三つのものに於きましても、身體に於ける疾病と同じやうに、悉く之を注意して發達せしめ、又養成し、或は矯正して参りましたならば、此三つのものに就ても同じく立派なる結果が見られるだらうと思ひます、

遺傳と云ふものは「ダルウキン」と云ふ人の進化說にも大關係を及ぼすものであります、例へば御承知の通り人間の源と云ふものは極く小さなもので、言はゞ一つの分子であります、其分子が追々發育するに從つて極く小さな植物のやうなもの、例へば藻のやうなもの、水草のやうなもの、それから追々變化して高等の植物、又變化して犬猫猿とか、續いて人間と云ふやうな順序になつて來たのであります、此順序から此學說を土臺として考へて見ましたならば、今日此處に題を揭げました遺傳と云ふやうなことも、人工的に十分に改良して行くことが出來やうと思ふ、是は色々事實に於て證明の出來る話であります、例へば「アラビヤ」の馬、「アラビヤ」では最も多く馬を使ふ、日本でも「アラビヤ」の馬を大變に賞揚する、何故賞揚するかと云へば、「アラビヤ」では非常に砂漠が多く、且つ草木の無いさうして砂原が多いのであるからして、貿易だとか、それから此方から彼方へ旅行すると云ふやうな場合には到底人の足では歩くことが出來ない、止むを得ず馬を使つて、即ち陸上の船とも言はれる位に馬を珍重して居る、從つて此養成改良に就ては充分に力を盡して居る結果であります、此動物の一例の馬に就て見ましても、今日は殆んど完全に近いものが出來たのであります、又人間の御話になりまするゝと、例へば貴夫人方が既に西洋の歷史で御覽になつた如く、彼のギリシヤの昔に於て「スパルタ」と云ふ國がある、其「スパルタ」の國は一度は既に敵國から攻擊を受けて、殆んど全國亡びたと云ふ位の有樣であつた、けれども其スパルタ王が充分に人間の繁殖と云ふことに力を用ゐ、躰力に重きを置いた結果、首尾能く敵國を

倒して己の國が全盛を爲したと云ふ例もございます、又支那に於ても例へば呉越――呉越の戰爭に就きましても、同じやうに越の國が非常に大打撃を呉の國から加へられました所が、熱心なる衛生と躰力の養育と云ふことに就て研究した結果、矢張り首尾能く己の目的たる復讐を遂したこともございます、是は歷史上のことでありまして、我日本に於ても矢張斯う云ふ事が澤山あります、此歷史上の御話は申す迄もなく眼前の草木――草木のやうな物に就きましても既に斯う云ふ例があります、それは薔薇です、又其他總ての果物に就ても充分に西洋の種を日本の地面に移して是を改良し、培養した結果、今日立派に美麗なる實を結ぶと云ふ次第であります、斯樣な風に簡單に遺傳と云ふことを先輩の進化說と云ふことから考へ及ぼして見ましたならば、吾々人類の中にある遺傳、或は惡疾、即ち實に惡い傳染病の傳播を防ぐは難くはなからうと思ひます、例へば太古の支那の伏羲神農黄帝堯舜、又は西洋の歷史に於きまして、「アダム」「イブ」の如き、日本では神代に於ける時です、此時代なれば此遺傳或は惡疾などの懸念は些しも要りませぬけれども、今日複雜なる世の中になりまして非常に病氣も殖え、又其種類と云ふものも甚しくなつて來ましたから、頗る綿密なる注意を以て此の災害の他の物に傳播せざることを希望しなければなりませぬ、其原因に於きましても充分研究しなければならぬことでございます、又一般の豫防法それから衛生と云ふやうなことは此會にはもう既に先輩諸氏が段々講義をなされて、皆さまも充分に御承知のことだらうと思ひますから、私は唯自分の専門の眼病と云ふことに就て少し御話を致したいと思ひます

茲に「マグヌス」の盲人の統計表がございますから一寸此處へ書いて見ませう

盲人百人中の原因數

初生兒膿漏	一〇、八七%
視神經消耗	一八、三〇%

虹彩及脈絡膜	八、八六%
角膜病	八、〇六%
外傷	一〇、七三%
網膜剝離	四、七四%
交感性眼炎	四、五%
トラホーム	一〇、四〇%
先天性疾病	三、七七%
綠內障	八、九七%

斯う云ふ例でございます、此例は實は確實と云ふまでには往かない、實際に於ては是より殖えて居るかも知れない、又日本に於ては實に遺憾ながらまだ充分な統計をすることが出來ない、有名なる杉先生、續いて吳先生等が統計學を研究せられて、又其實行を政府に迫つて居りますけれども、總ての整理が一致しない結果、充分な統計表は出來ませぬので、殘念でございます、今日にては殊にトラホームの流行以來此統計を採ると云ふ趣意が高まつて參りました、亦文部の當局者等も必要を認めて居りますから、追々其內に完全に近い統計が見られることであらうと信じて居ります、右表中で先天性疾病三、七七%は今日の殆んど御話の眼目なる所であります、即ち生れながらにして眼の見えぬ者が盲人百人の內で三人七分七厘と云ふやうな譯になります、先天性病の中の畸形の御話を申上ますとどう云ふ風に眼に現れて來るか、先づ外方から內部に向つて算へますと、第一は眼瞼です此の上下の眼瞼が兎唇の樣に欠て居る、尤下眼瞼に來るのは少いけれども、左の圖の樣なのがあります、眼瞼を閉ぢても角膜の一部は常に外氣に觸れて居る圖であります

其次に來る先天性の病氣では、小角膜と云のがあります又普通瞳孔と云ふは極く中央にあるまん丸な穴でございますが、之が開いて斯う云ふ風になつて缺けて居るのがあります（此時圖を示す）若し重くなりますると、此位に開いて居るのがある、瞳孔が全く無いのです、俗に

（圖を示す）　瞳孔が流れて居ると申升

それから今度は奥の方になります、脈絡膜と云ふ所に缺損が出來て來る、又ずつと奥の方に參りますると、最も大切な機械の視神經と云ふ、此視神經がないものがある、斯う云ふ者は視力を得ることが出來ない。又小眼球と申て眼球總ての組織が小く出來て居るのがある。殊に其最も甚しき者になりますと云ふと、眼の球が無い、即ち無眼球と云ふので殆ど米粒か或は小豆粒位な塊りになつて是れには眼球の形が少しもない、さう云ふものがある、實に斯う云ふ畸形の小兒が生れました時には其兩親は非常な心持ちであるだらうと存ぜられます、斯う云ふ畸形の者は甚だ少ない、私共の見て居りますのは少なくも年に五千から五千四五百人の病人で、其病人を取扱ひますると、一万から一万一二千の眼を見まするが、其中大抵十人の上を越したことはない、十一人と云ふ者は是まで七年間の統計で見たことは無いのであります、一寸其統計に於ても是だけの不具な者が出來ると云ふことは立派な證據である、又此等は遺傳的疾病畸形の中て最も著しきものであります、それて斯樣な畸形の出來ますのも、決して偶然に出來るものではない、所謂造物者の徒らに造るものではない、或は佛者の方て言ひますると因緣とでも申しませうか、其兩親に依て原因を見出すことが出來ることもあります、又數代上に遡つて――十數代上に遡つて其先祖に原因を認めると云ふことも有ります、併し必ず此等は矯正の出來ぬと云ふことではございませぬ。

只今書きました病氣の中でもトラホーム、それから外傷、例へば傷てす、怪我をして眼を潰すと云ふやうなことは、是は生れ出て世間の空氣に觸れてから初めて起る病氣てありまするからして、兩親は少しも遺傳的の責任を負はない次第でありますけれども、最も兩親が注意しなければならぬことは、前表中の膿漏眼(初生兒)であります、是等は多分先歲の――宮下さんだつたらうと思ひますが、充分に御述べになつたこともあります、私にも二十九年てござ

いましたか、此會で一寸豫防法に就て簡單に御話したこともありますから今回は畧して申上ませぬ其外脉絡の疾病視神經の消耗症角膜病等は皆いかゞはしい病氣が其原因の多數を占て居升から、之に因て失明せるものは其子孫に如何なる變態を殘すか餘程恐るべき結果が出來る、又其惡疾が子々孫々まで纏綿し容易に離れ難いと云ふに至ては密かに恐れて謹まなければならぬので有升

又此處に一寸一言申上げたきことは血族結婚、例へば從兄弟同士、それから又再從兄弟のやうな者、甚しきになりまするとニ等親、例へば叔父、姪と云ふやうな近い血族の結婚は此遺傳、殊に畸形と云ふことを最も多くする、其血が近ければ近い程色々の病氣が殖えて参るのであります、此事は耳鼻咽喉科の金杉君が積年研究せられて、其雜誌の上に發表せられたのでございますけれども、眼の方に於きましても同じく血族結婚は其病氣の數を多くする、先づ第一には視神經の內部の病氣て、其次には色素性網膜炎、是等は最も多く血族結婚の患者にあることてありまして、晝は見へるが夜は見へない、而かも見へる場所が狹く殆んど管から天を覗くやうな工合で、誠に難澁な病氣であります、此病氣も年を經るに從つて追々視力減少し終に失明に至るので有升

是は其統計がありますが、甚だ多くはない、けれども必ず一年に二十人や三十人位の數にはなつて居りますからして、血族結婚と遺傳は餘程注意しなければならぬことだらうと思ひます

玆に此間私の實見した面白い實例がございますが、それは　出產等のことがありますと、御互に親族朋友間の如き親しい所は往復し、喜びを述るそして其の言ふことが甚だ面白い、女の子を見ると誠に良い御器量で御目出度うございますと言ふが、美貌の男子が生れた所へ参りましては、普通通り一遍の人は良い御子さんであると言ふ、少し關係の深い者であると、いや是は男て御目出度う併し餘り器量が良過ぎると言ふ、甚しい者になるとどうも斯う云ふのは

往かぬ、誠に往かぬと云ふやうなことを言ふのが澤山あります、是はどう云ふ意味でありませうか、餘程吾々共が考へて見なければならぬことてあります、此筆法で往きますると、男は極く醜男でなければならぬと云ふことになつて來る、さうなりまするると吾々男共は實に情なきことになつて仕舞ひます、又翻つて考へて見ますると、是には他に意味があります、御維新前に於きましては、斯う云ふ風潮はなかつたやうでありますが、御維新後に於て斯う云ふ事實が多くなつた樣であります、それは何故かと云ふに社會が非常に進歩して、御互に是と同時に惡魔と云ふものが自然に發達して、吾々を誘惑しやうと云ふ事に專心全力を擧げた結果、大切な子息が器量が良いと云ふと殊に依ると惡魔に引懸りはしないか、其爲に中途に岐路へ這入て折角の目的を達することが出來ぬ、隨つて身代を譲ることも出來ぬ、受けることも出來ぬと云ふやうな心配がある、斯う云ふ事から子供の醜を賞める、或はそれを奬勵すると云ふやうなことになつたのではなからうかと思ひます、けれども若し先の理窟にしまして男は必ず醜たり、女は必ず美たりと云ふ筆法で何處までも往けば宜しうございますが、左ふ注文通りには參らずして却て男親の醜が第一の愛孃にそつくり移り行くと云ふ大變な反對現象を現すことになつて參るのが御座います、此の惡魔の誘惑を恐れるより自然醜男子を希ふと云ふ筆法は甚薄弱な議論である樣に思はれる

是は唯人の意思それから公徳、道徳と云ふ、是等のものを充分に養成發達して往きましたならば、確に其弊害を除くことが出來ます、それで例へば小さな中から極く立派な子供であつて、漸々成長するに從ひ眉目清秀口を開けば滔々たる辯舌蘇秦張儀の如く、又綿密なる腦髓、深奥なる學理而も公徳道徳に至つては釋迦も孔子も友とするに足ると云ふ人物それから又例へて見ましたならば丁度朝比奈三郎、鎮西八郎と云ふやうな人に劣らぬ健全の身體に、光源

氏の君、業平朝臣の顔を持たせ又小野小町、清少納言等の才を兼ね、さうして巴御前越後の板額と云ふやうな能き體格を加へて往くと云ふ風に體格、容貌、道德、此三拍子を揃へ衛生の普及、教育の瀰蔓道德の鍊磨を希望して行きましたならば終に吾々の理想に近い人が出來ます、どうかさう云ふ風に吾々も改良と云ふことに注意をして置きたいことゝ思ひます、

終りに臨みまして、トラホームに就き、彼の先輩先生が既に御話もございましたけれども、又今日の問題外で有升けれども、少しくトラホームのことを申述べやうと思ひます、丁度三十年でございましたが、文部省で急に學校衛生のことに就て――殊にトラホームのことに就て非常に嚴重にされ、東京府下は勿論のこと、各府縣へも一般に達を出して、學校では眼病の取調べを致さなければならぬと云ふことで、方々で色々な統計が出來ました、其内で殊に少ないのは百人ある生徒の中に七人ございます甚しき所になりまする と百人の中殆んど二十人位健全な者があつて、其他の八十人は悉くトラホームに罹つて居ると云ふやうな報告がありましたけれども、是は平均致しまして殆んど百人の中二十二三「パーセント」と云ふ者は確かな統計であるだらうと思ひます、而して其豫防法學理と云ふやうなことに就ても、近來讀賣新聞で井上通泰君が家庭の衛生欄内で委敷述べて居ります、皆さんも御承知のことだらうと存じますが、此トラホームと云ふものは果して危險なものであるか、其やうに恐るべきものであるか、トラホームと聞けば直ぐに逃げなければならぬものであるかと云ふに、決して想像する如く恐るべきものではない、トラホームを恐る以上は、衛生上に就て傳染豫防の効果を得やうと欲するには、唯其注意が二つあるだらうと思ひます、第一は勇氣、第二は忍耐、而して極く精密なる注意を要するのである、然らば其勇氣と云ふものはどう云ふことであるか、恐れるのは徒らに恐れるのでなく、眞に病理を研究した上で

恐れるならば宜しいが、――此場合が殆んど違ふだらうと思ひます、故に專門學者に能く理窟を聞いて道理を明かにした上て、トラホームの一定の定義を自分の腦髓に下して、怯懦心を去り、第二には能く豫防法を守つて、それから容易に癒らない慢性の疾病でありますから、終始忍耐をして婢僕の末に至るまてトラホームを能く注意して、豫防に盡力すると云ふことが一番必要であらうと思ひます、又一の家庭にはトラホームを成べく入れないやうにしなければならぬ、例へば女中等を雇入る場合に於て、先づ第一にトラホームを檢査するが甚だ必要である、決して家庭には新たにトラホームの侵入を許さすと、規則を立て置くことが肝要であります、随つてトラホームの有無と云ふことは學校の入學試驗にも關係します、それから今後結婚の第一の條件にもなるだらうと思ひます、てありますから餘程注意を要さなければならぬ、若し一旦トラホームに罹りましたならばどう云ふ風にしたが宜いかと云ふに、第一に眼に着ける物品、即ちトラホームと云ふものは見たばかりで傳染るべきものでない、其證據は吾々眼科醫師が朝から晩までトラホームをいぢつて居りますけれども、決して見たばかりでは傳染らぬ、其傳染るのは即ち眼脂が手拭又はハンケチなどの樣な總の物に附いて其附いた眼脂から初めてトラホームが起ると云ふ理窟になつて來るから、其傳染を媒介する所の物――顏を洗ふ一切の道具即ちハンケチ、手拭洗面器、此他褥衣寢具など、總て是等の物を各自別々にして置かなければなりませぬ、それで若し不幸にして一家の内に此患者が出來ましたならば、其上に立つて居る者は先程申しました通りの注意をして、熱心に初から終りまで兎に角病氣の全癒するまて、殊に小兒に於は此脂を常に取つて遣らなければなりませぬ、又此脂を他の人に傳播しないやうにする、若し其脂を取つたら早速充分に水を以て脂を石鹼で洗落すやうにし、或はもう一層注意するならば昇汞水のやうなもの丶中へ手を入れて之を能く洗つ

て、然る後に充分に乾いた手拭で摩擦し、自分の手の始終乾燥して居るやうにすれば、決して傳播する虞れはないのであります、

是は以上述べました簡單に遺傳と云ふ問題に就ての總論、それから遺傳の恐るべきもの丶、遺傳の疾病の重なるものは殊に言ふに忍びざる所の惡疾などもありますけれども、決して是等は恐れて避くべきものではないので、充分に吾々の今日の智識の程度に於て防ぐことが出來る、蔓延することを止めると云ふことが出來るのでありますから、是等の點を能く御會得になりまして、其實行に務められまして、國民の母たる責任を十分に盡されんことは、吾々醫士の最も冀ふ所でありまして、又國家の幸福になる事と思ひます、



夏の衞生（一）

醫學士　竹中成憲

夏期に於ける衞生は左記の數項に就て論ずれば事既に足る矣、甚だ簡單なるが如しといへども夏期に病者最も多く橙色黃化して醫顔青してう古諺に鑑み醫者が冬期生計費の大部分を夏期に收むる事を思ひ國庫の傳染病豫防費の大部分が夏期に費消さるヽ事を考ふれば夏の此簡單なる衞生が如何に個人及び國家衞生の上に大なる關係を有するや一目瞭然たらん時將に酷暑實に注意すべきは此時にありさて夏の衞生に關係あるものを擧ぐれば

●（疾病）　赤痢、コレラ、腸チフス、急性腸加答兒脚氣、マラリア、ねびゑ、

●（飮料）　水、ラムネ、麥酒

●（食物）　菓物、野菜、さしみ、豆腐、心太

●（害物）　蠅、蚤、蚊、下水、掃溜、

以上に外ならず之を各論すれば左の如し

夏の病氣

急性腸加答兒は勿論赤痢、コレラ、腸チフスの三病は其病毒天然痘又は麻疹の如く瓦斯體に非ずして固形體なり換言すれば其原因は下等植物又は下等動物にして早くいへば「虫」なり而して其人に傳染するや空氣に依て來る事なく只喰ふ氣に因て來るのみ即ち口より食物又は飲料に混じて體内に入るなり故に口より入るものに注意すれば是等（コレラ其他皆）の疾病に罹る事なし注意とは何ぞや煮沸の二字のみ煮たるものを喰ひ沸したるものを飲めば安全なる事大磐石の上に座するが如し何となれば病毒は「虫」なるがゆゑに煮沸すれば彼等皆死して無害となればなり

●●●●腸加答兒　は左の如く心得らるべし

慢性と急性とあり慢性は大底結核（肺病）なるがゆへに慢性のものは既に醫治を加へつゝあるべく素人にして承知すべきは「急性」のもの是なり（原因）胃加答兒と同一なり即不攝生（酒の飲過、不消化物過食腐敗物の飲食等）（徴候）腹痛、下痢（療法）不消化物を禁じ温き消化し易きものを食すべし、腹部を温暖に保ち腹痛には蒟蒻の温めたるものを貼てる事良し、一日以上治せざれば醫診を受くべし裏急後重（しぼりはら）あるものは秘する事なく早く打明くべし殊に赤痢時然り

●●眠冷（ねびゑ）とは熱さが爲めに夜中寢具を剝ぎ又は冷所に眠り内臟の感冒するものをいふ之に因て腸加答兒を起し又他病の誘因となるべし

●●脚氣　は米の中毒なりとは往年予の揚言せる所米は運搬、貯藏の爲め其中に一の毒素（假に之を「カッキーン」といふ）生ず人は此「カッキーン」に罹るなり元來脚氣の原因に就ては學說一定せず貧血說、寄生蟲說、瘴氣傳染說、細菌說、魚毒說、自家中毒說米食說等あり予は米食論者にして明治三十一年左の如く言へり

「米なるものの貯藏運搬のため、一種の變化を蒙り脚氣は此變化したる米に因する化學的中毒症なり」

と

同年山極醫學博士左の如く言へり符節を合するが如し

「脚氣は貯藏法悪しき米の食用に由來する一種の中毒症なり」と

要するに脚氣は米に一種不明なる變化あつて起り同時に周圍に一定の條件（約束）なかるべからず年令密居、姙娠等故に

脚氣＝米＋Ｘ（エツキス即不明物）＋Ｙ（ワイ即別の不明物）Ｘ＝カツキヤン

本病を豫防するには米を全廢するには及ばず米六分に麥四分を混じたるものを常食すれば宜し軍隊監獄及之を勵行せる學校等に徴して明なり未決監には脚氣ある理なり何となれば已決囚は病人の外勝手の食を許さゞるも未決囚は自費若くは差入等にて普通辨當即ち米食を許すものなればなり

ブラジル國より昨年予の許に達せる通信に曰く「當國人は米食が常飯に有之、それ故にか脚氣病不尠當國の醫者も矢張脚氣の原因は米食に在りと爲す者の如し」云々

○○麥酒　はアルコール少く又少々ながら滋養品を含むゆゑ頗る良き飲料なり只日本人は其貯藏法を知らず店頭に於て數日又は數週間天日に曝し殆ど腐敗せしむるものあり麥酒は必らず暗き冷所に貯ふべし飲かけのものを翌日迄貯へむとせば瓶を密閉し之を倒に爲して手桶の冷水中に入置くべし餘り感服はせざるも單に密閉して戸棚に置きたるものよりも遙に良し古き麥酒は腸加答兒を起すものなり

予は「脚氣ビール論」なるものあり明治三十一年發表せる學説なり要點は「ビールを平生少々づゝ飲めば脚氣に罹らず其例證としては麥酒會社の社員及職工に脚氣なきの實例あり予は脚氣に罹りたるものに之を飲用せしむ

因に記す、本邦麥酒釀造の歴史は明治八年十月東京櫻田ビールを以て濫觴とし翌九年札幌ビール起り明治二十年九月エビスビールありキリン、アサヒ、東京ビール交々起れり櫻田はドーカン今之にカブトビールを加へて六會社とす札幌は一年凡一万六千石を

造るといふ職工凡三百五十人毎日壜に詰めること壹万五千本（東京出張所を除き）

世界中最も多く麥酒を呑むは獨逸にして其或る地方殊に甚しく而して此地方に癌腫多きを以て麥酒を以て癌腫の原因に擬する學者あり蓋し取越苦勞なり

予曰、血管の變化は癌腫の誘因となるを以て飲酒は多少癌腫を避くるに不利なるやも計り難しといへども嫌酒家に癌腫多々ある事を思はゝ是亦驚くに及ばず「麥酒心」と稱する心臟變化は酒毒にあらずして内服液躰多きの結果なりとす

此頃東京在に「明治麥酒」と稱するもの現はれたり却々良し

夏の飲料

●水　最大切にして最危險なるものなり赤痢コレラ、腸チフス皆之れに因て發生す殊に便所に近き井戸の水は恐れざるべからず夏期は必らず沸し冷して用ゆべし沸せば其味惡しといふは沸して其器を密閉するがゆへなり善く攪き廻し又は栓を爲さずに瓶に入れ振れば空氣と混合し其味美くなるものなり

支那人は概して不潔なれども彼に傳染病驚く程尠きは彼は生來生水を飲まず必らず沸すがゆへなり日清戰爭に於て我兵士、傳染病の上に於ては彼に正に負けたり韓國人は支那人に反して生水を飲用す是彼の欠點なりとす

●麥湯　は右の道理に因り大に良し且脚氣の藥となる事受合なり

●ラムネ　を或田舎者が見て此熱いのにあんな煮たつたものが飲めるものかといへる話があるが實際夏の飲料としては宜しきものなれども中に入るべき酒石酸の代りに硫酸を使用せるものあり然るときは毎日硫酸を呑む事となり良しからず、尤も極めて薄き硫酸は藥として呑む事あるがゆへに驚くには及ばず只齒を損するは閉口なり又時として　ラムネ　は鉛を含む事あり是とて白粉（鉛を含む）の如く年百年中用ゆるにあらず只夏期のみゆへ甚しき害はなし

要するに濁りたるものは用ゆべからず貯藏法大切なり天日に當てず冷き所に置くべし

夏の食物

●刺身　は頗る消化し易く病人にも好き食物なれども只夏は生水との緣、切れざるがゆゑに注意を要す魚の肉も　爼　も庖丁も皆沸したる水にて洗ひ之を作らば赤痢、コレラ、腸チフスの最中に之を食するも差支なし多くは是言ふべくして行ひ難きがゆゑに流行時には先づ之を避くるの安全なるに若かずといふべし

奇なる事は刺身を食する事は西洋になく東洋も我大日本帝國の民ばかりなるが如し支那人は勿論韓國人も「さしみ」を喰はず牛肉を稀に生にて食するも「ヘム」の如くにして食す（牛肉は昔より食せり彼處は少きが如し）日本人は鳥、牛肉の刺身を喰ふ

●菓實　は夏の良き食物にして便通を良くし　養にもなるものなれども未熟のものを喰ぐは嚴禁せざるべからず

西瓜、甜瓜等は下痢を起し易し瓜其物が病毒を含むにあらざるも下痢を起し易きもの換言すれば腸をいたむるものなるがゆゑに瓜其物に罪なくとも此が腸の疾病の所謂「誘因」となるなり故に赤痢の流行時には之を用ゆべからず

菓實の多くは砂糖を入れ之を煮て食する事良し

●野菜　素より良し只生にて食するもの卽ち

●大根おろし　の如き傳染病流行時は注意せざれば危し大根を沸し冷したる水にて洗ひ之を作らば差支なし

●漬物　も同一にして之を洗ふ水は沸したるものを用ゆれば安心なり

尤も此の如き細事にまで注意を要するは痢軍襲來の時とす無事泰平の時に漫に疾病を恐るゝは良しからず其匕加減が大切なり之に反して少しも病を恐れざるものは愚者の隊長なり獸類すら食を吟味す

●豆腐　は極めて良き欠點なき滋養物なり貧民は

下手なソツプを作るよりも之を喰ふべし餘り硬く煮詰むべからず湯豆腐最も良し然るに煮たるものは多く冬の食物なり夏は兎角奴豆腐となすの傾きあり豆腐は内部に病毒決して存在せずといへども之を貯へ又は入れある水は赤痢其他の流行時には危險なり故に是非奴豆腐となすならば沸し冷しの水にて流し食すべし

●雪氷　は飲食物を冷すに用ゆべきもの我國の如く氷其者を喰ふは甚だ下等にして往來等に於て公然之を削り賣つゝあるは如何にも貧乏國の躰面を表に現し列國に對し辱なき能はず假に食するとして雪、氷其者には病毒なし是も豆腐と同じく氷水を作る際用ゆる所の水に注意すべきなり同じく沸し冷しの水を用ゆべし

●心太　是亦同一にして心太其者は害なし之を貯ふるところの水は危險なりゆゑに之を求め來り自宅にて沸し冷しの水にて洗ひ喰ふべし流行時は街路にて之を賣るものに沸し冷し水を使用せしむべく若し命令守られ難しと認むれば衞生警察の上より之が發賣を禁止するを要す

夏の害物

●下水　を夏期に至り攪き廻すは良しからず晩春又は初夏の中に十分掃除を爲し疏通を計り置くべし夏の温度にて總ての有機物腐敗分解し易きは臭氣を發するを以て之を知るべし夏期に到り掃除を爲すは所謂、盜を捕て繩を綯ふものなり此腐敗臭氣は即ち細菌（小さき虫）の作用に因て起るものにして傳染病の原因となるものなり漫りに攪き廻すよりも寧ろソツト爲し置き水を充分に流す方安全なり時々往來の兩側に溝泥を上げありて通行の際臭氣鼻を突くが如きは危險なり決して文明國の爲すべき事にあらず文明國の都會の下水は地下に大なる暗溝を設け（人が立て歩ける位）便所の不潔物も下水の汚れも皆な之を外に現はす事なく遠方に運ぶ仕掛なり獨逸の方法は此くして後之を肥料に使用する事となり居り水

道と相俟て其清潔思ふべし日本も早晩之を設けざるべからず予は世人の水道を先にし下水を後にするは頗る誤れる事と信ず水道出來て多く水を使ひ其不潔水を何れに運ばむとするや假に目下の下水にても良しきが兎に角今少しく注意しても罰は當らざるべし外國人に對し耻辱なき能はず

●蚊　は草多き所にも生ずれども水なくむば發生せず而して彼は實に下水を以て巳の鄕里と爲す下水に蓋を爲すときは蚊發生せず故に東京にても日本橋、京橋には蚊棲息せず小僧も蚊帳を見たる事なし之に反して下水を開放しある所は其跋扈甚しく本所、深川其名所たり本鄕は高燥なれでも同一殊に大學の邊多かりき當時人曰く多きも尤なり蚊が屋敷（加賀屋敷）なりと、文明國には蚊殆どなしロンドンの如き殊に然り此蚊と地震多き爲め日本に來るを恐るゝ西洋人多し蚊は單に刺すのみならず蚊の種類に依りマラリアを人に傳染せしむ抑々マラリアの原因は小さき動物なるが蚊に因て人に傳へらるゝは事實なり然れども蚊のみを以てマラリアの唯一の原因とするは誤れりマラリアは空氣及び飲食物に因ても起り得るものと予（其他例せば新潟の若杉學士）は信ずマラリアなる語は「マラ、アリア」の二字より成り譯すれば「惡しき空氣」となる古人亦人を欺かずといふべし

●掃溜　の塵埃は市外に於て燒くを良とす

●蠅　は不潔極まる動物なり其不潔物に群集し其足を洗はずして直に吾人の食物に來るを思はゞ其危險言ふべからず宜哉不潔なる所蠅多く蠅多き所、傳染病多し、予曾て赤痢流行地を巡廻し牛馬多き所必らず赤痢多きを見たり是同じく蠅に歸すべきものにして牛馬多ければ蠅多きに因るなり

●蚤　は未だ直接の害は之を認めざれどもペストは之に據て傳染するものゝ如し兎に角蚤多きは其場所の非衛生的（不潔）なるの一證なるがゆゑに蚤なきやう爲すべきなり春、疊の下を掃除し「のみよけ粉」を夏期使用すべし

（完）

○婦人とこども

醫學士　唐澤光德

●授乳のはじめ

萬久里のやうな事が、外國にもあるかしらと、各國の風俗を調べましたら、なか〳〵面白い事がありました。

一躰產及產婦の產褥にある事を不淨だとする一種の觀念は、ひとり我國でばかりの風俗ではないと見えます、彼の神代に鸕鶿草葺不合尊が、產屋をしつらへない内に、御產れになつた時分から、此不淨－穢れを避ける爲に、特別の家屋及待遇が與へられましたと同じ事が、今も尚開化しない各の未開國に行はれて居ります。

波斯國では四十日間も產婦は分娩後特別な處に住まはせられる風俗で、ソロアステル　と云ふ人の文に

產婦は特別に高い處で、火と水と其地方で神聖だとされてゐる一種の樹木より、十五步以上隔たつてゐる處に住まはせられて、茲にゐる間は決して野の火を見てはならず、又誰れも產婦に接する事を許されない、尤食物丈は運ばれるが、其際にも不淨を恐れて金屬製の道具を用ひて跡で洗いやすいようにされてゐる、且食物を運搬する時でも產婦の室から三步の隔たり以内へは决して入つてはならない規定がある。

とかいてあります。

また印度人種は一般に產屋を設けて其所で分娩を致しますが、其内のブレーヤー族では第一子の分娩の時は、產後二十二日間、第二子からは、十三日乃至十六日間其家に住んで、其間は其產婦の母又は老母丈が、其世話を致しますし、ベタと云ふ處では產屋にゐる事六日間たてば、あとは其村落に設けられてゐる療養所に五日間收容されます、其他かくの如き風俗は到る處にありまして、ある所では二三日、あ

る處では十日と日數の相違とやり方の相違はありますが、いろ／＼行はれてをります。

かくの如く產を一種の穢れと考へて、種々の迷信をもつてゐる國々では、其穢れてゐる產婦の乳を前途に希望ある最愛の子にのませるのを害があるとして其間は乳をのませないで、よそのものを與へてをく國が少くない。

また他方には產婦が出產後八時間乃至十二時間を經てから、初じめて分泌せられる乳汁は、學問上にも初乳と稱づけられて、通常の乳汁に比べれば成分も違つてをります外に、色も黃色をおび、濃さも餘程うすいものですから、此兩三日間丈分泌される初乳が子供には毒である、不消化であると考へられてゐると見えまして、各國の風俗上餘程此點に關係した事がありました。

まづ生れたてから小兒に乳以外の他の食物を與へる國、（今の醫學から云へば、生後一年程は他の食物を嚴重に禁じますが）は、ヲールドカラバーでは哺乳兒に多量の水をのませ、南亞弗利加のワキクユでは「バナナ」を自分の唾液とまぜて食べさせます、南亞米利加のハクーヤン印度種族では「バナナ」の煮たのを、カライベンでは他の薬物類を、カロリナ島では椰子の實の汁を水にまぜて與へます、またウネツテエクでは二三月間は母の乳で育て丶夫れからは直に「パン」だの、肉だのを食べさせます、甚しのは三ヶ月位の小兒にもう「ブランデー」を飲ませる所もある位

次ぎに分娩後數日間母乳をのませない風習は、我國でも古來三ツ目など丶云つて、其間は萬久里計りを飲ませてをき、四日目から母の乳を飲ませる風習がありましたのも其一例でござりましよう、サモアの住民は水と熱した石とて母の乳を檢查して、其乳の初生兒に適するや否やを定めてからはじめて飲ませますし、シツフエル島では尼おまづ其乳を檢查して害のない事を申し渡されてからのませます、即兩方共に分娩後兩三日位たつてはじめて飲ませるので

其他或は九日或は五日、四日三日と種々ありますが一番多いのは三日たつて一母の乳がよく出てくるようになつてから、のませはじめます、此間何をやつてをきますか、或はないてもかまはずなかせてをくのもあり、不都合な前申したような食物を與へる所もあり、また所によりては他の婦人が代はつて、母の乳が許される迄飲ませてをく所もございます。して、現今の醫學上から如何なる處置をとつていゝかと申しますと、母が病氣其他の差しつかへがなければ、直ぐに乳をのませてよろしいので、もしどうしても出なければ牛乳の四倍又は五倍にうすめたのをのませます、御承知の如く赤子は生れをちてから浴をつかへば直ぐによく睡むつて八時間乃至十二時間たつてから初じめて眼をさましますが、母の乳もちやうど其時分になれば出てまゐります。

また初じめの内乳の出方が少ないと云つて、心配のあまりすぐ牛乳にかへてしまはれる方がありますが、乳の出方はのませてをる間にだん〳〵ましてまゐるものですから、出方が少ないからと云つて、直ぐに止めてしまはれてはいけません。

●母乳の禁ずべき時

乳汁の分泌せられますのは、一體母體の血液が乳房に循環つて來て、其處の細胞は此血液をとつて乳汁を作り、分泌するのでございます、そうですから母の身體の壯健な間は其血液もよく、從つて乳の成分もいゝので、小兒に極めて適當したものですが、もし母の身體に違常がありますと、只に其血液の成分が異りますばかりでなく、乳房の乳を作る器管を司さどつてゐる神經にも異はりがまゐりますから、乳汁にも非常な相違が來、うすくなり、有要な成分もへつてしまつて、かような乳をのませてをきますと、すぐに小兒は下痢を起し、やせてしまい、ひどくなりますと、遂には聲もかれ、痙攣し俗に云ふひきつけなどを起し、命まで失ふやうになります。

只今はちようど盛夏、大人てさへ腹をこわしやすい時、ましてよわい小兒の事でございます、少しても

大便の色がかはつたり、小兒の元氣だの、様子だのが、かはりましたら、直に專門の醫師のもとへ行つて、其乳を與へていゝかいなやを御訊ねなさい、可愛ゆき赤子、頬の林檎色に色どられた、色もまつ白によく太つてゐる子が、一寸した過失をかまはないでをかれます爲に、例へば呑ませて惡るい乳をかまはずのませたり、のませすぎてはいけないのをのませすぎた爲などで、忽ちにやせてしまひ、元氣もなくなり、よわつて來てから大騒ぎをしてつれてこれいくら、骨を折つても、とりかへしがつかないで、とう〳〵とられてしまひますと、かゝる場合に日毎遭遇してをります私共でさへ、何となく掌中の玉をとられた心地がして、其日一日は何となく心知よくはござりません、まして直接に其子の親、あれが惡かつたからだらうか、これが惡るかつたせいかと思はれると同時に、いかに悲しまれる事でござりましよう。小兒を育する上に最大切なのはすべての注意を常に怠らぬ事でござります。

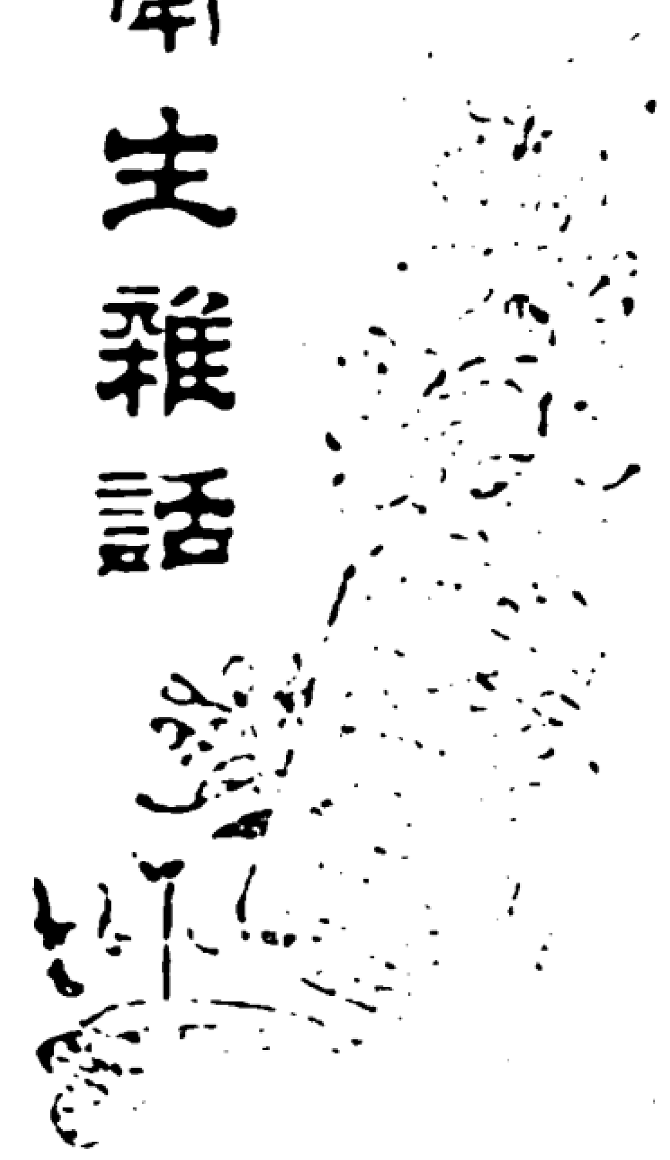
一時の病氣の外母乳の禁ずべき場合を大略記しますと、母の精神病、癲癇、結核、心臓病、慢性の皮膚病、腎臓病、脚氣、急性熱病例へば窒扶斯、インフルエンザ、マラリヤ、重い貧血症、月經時、乳房及乳嘴（ちゝくび）の病、母が非常に神經質なる時はやめなければなりません、其他母が亜爾固保兒――酒を多く飲んだり、烟草を多く喫んだりする時、又非常に心配な事が打つゞいた時はやめた方がよろしい。

月經の時は母の乳にかはりがまゐります、だが授乳をしてゐられる母は、大概晩くまで月經がまゐりませんが、もし非常に早く來まして、三ケ月目位からまゐりました時には小兒に差つかへを起す事が多うござります、こう云ふ時には牛乳に代へた方がいゝ、もしまた別にさわりがなければかまはないでよろしうございます。

兎に角此乳をのませていゝか惡るいかに就いては、少しても疑があつたら、直ぐに醫師のもとへ行つて

訊ねられるのがよろしいと思ひます。

●御斷り　酒精問題講話に關する片山博士の講話は醫家醫學會雜誌に其後掲出なきにより尙博士に請ふことゝなしぬ



衛生雜話

醫學士　石原喜久太郎

●季候の變りめの注意

毎年七月八月の内は、何處でも暑さの盛りでありますが九州より四國本土に亘りて一日中の温度が左程著しくは變化致しません、けれども、來九月頃からは、季候も段々と移りゆくのでありまして、是迄とはちがひ、朝夕、夜分等は、餘程涼しくなります、即ち一晝夜の間の温度の極端から極端に差異が多くなッて來るのです。

人間の身体は、外界の狀況に應じて、それ相當に準備を整へ、夏は夏のやうに、冬は冬のやうに、自然の調合で、甘く身体をもつてゆく譯になつて居りますが、此調子が狂ふと云ふと病氣を惹き起します、譬へば、今迄、暑さの時候で、單衣一枚で丁度差支無く身躰をもッて來たのに突然急に唯の一日でも、氣温が下ッて冷くなれば、身体は、俄に之に應戰することが六ケ敷く、爲めに、寒冒に罹ると云ッたやうなものであります。

それて、私は、皆さんに望みまするには、是迄は暑さの季候であッて、身躰がそれに慣れて來て居たのであるが、是よりさき、九月にも入れば日中だけは、暑さの時候と同樣に、まだ〱、殘暑であッて暑いけれども、朝夕夜分には、どうかすると、急に風模樣などが、變ッて來て氣温が下がる爲めに、寒冒に侵さるゝことが多いのですから、今から、そろ〱、其御用心を願度いと申すのであります。

却說それならば、どうしてよろしいかと申すに、私は、丁度此處て。

●冷拭法を御勸め申す

のてあります、是は、本年六月の本誌にも、久保醫學士が、お別れの詞の內に親切に勸め置かれまして御出發になッたのですから、皆さんもよく御存知の事と考へます、久保君は、冷水拭摩法としてお書きになつてあります、同じ事柄てあります、手拭を冷水に浸して程よく絞ぼり、それて、頸から肩、手、胴の區別なく身躰を總て殘る隈無く拭き取るのて、其間に、一二回も更々手拭を絞ぼりかへて拭くのてす、尙ほ其あとて、乾いた西洋手拭てよくこすれば、皮膚が一面に赤くなつてくる、即ち、皮膚に血液がよく廻ッて來るのてありまして、大層心持よく、冬分などは暖いよい氣持になります、少くとも、每日一回、朝の顏を洗ふ序にやるのてす、冷拭法は

●今頃が始め時てす

今日、實際に冷拭法をやッてゐる人は、案外に少いやうに思はれますが、是はやッて見ない爲めに、其效能と、其味を知らぬからであらふと存じます、實地にやり來ッてゐては、とてもやめられない程の氣持のよいものであります。

今頃が、何ぜ、始めるによい時であるかと申すに、此冷拭法は、冬分の極寒い時に始めることは一寸おツくうて、つめたい水手拭を身躰に當てれば、ぞッとする、それて、二三日は勉强强してやッて見ても遂に及廢してしまふと云ふ譯てす、然るに、今時は朝、起きがけに、冷拭法を致しますればとて、冷い處ては無く、誠にせいぜいして、涼しく感じます上に、夜分の汗などをも綺麗に拭き取ることが出來ますから、身躰が淸潔になる爲めに、何とも云へない好き心地となります、それて、丁度今時分から始め段々と慣らして、これを每朝の一ッの僻に致して置けば、冬分になッても、おッくうてなく、遂には春夏秋冬を通うじて出來得るやうになります、夫故、どうか、是迄、やッておいてにならぬお方は是非此

雜誌を御覽下さッた翌日から御始めを願升、そうすると、云ふと此秋分の季候の變化に對しては、皮膚が丈夫であッて應戰の準備が整ッてゐるから、寒冒に襲はれると云ふことが無くなり、それからさきの色々の病氣をも防ぐと云ふ譯であらうと考へます

●冷拭法はどんな時でも、行ッて差支無きや

久保君が冷水浴のことをお書きになッて居りますが冷水浴は、若し、何か病氣にでも罹ッた時には、とてもやりとふせません、殊に御婦人方や、御老人方にはいかゞかと存じます、よし、冷水浴を始めましても、少し氣分の惡い時には（例へば鼻かぜにでも罹ッた時）あまり荒療治のやうに思はれてやることが出來ません、こんな具合に、一度、中絶すると、今度、病氣がなほッても、再び、何時頃から始めてよろしいか見當が付かない、それ故、遂に長く廢止すると云ふことゝなる、こんなふうであるから私も久保君と同じで、冷水浴は、强て御勸めは出來ません、けれども、冷拭法に至りては、左樣では無い、大抵の場合には行ッても差支無く、大病で無い限りは、毎朝行ふも先づ害は無からうと存じます、鼻かぜ位の時には別段差支は無いものと存じます、若し熱でもあッて、冷拭法をすれば、身體がゾッとして粟粒が出る（鳥膚となる）時には止めた方がよろしく、そうまでして、やるには及びません、トニカク冷拭法なれば大抵の場合には行ッて差支ありません、これを行ふには、冬分ならば、外の風が吹き込まぬ處がよろしく、湯殿ならば至極結構です。

●冷拭法の實效

私は小供の時に虚弱で困りました、後故郷で病院の醫者に勸められまして初めには冷水浴をやりましたが、前に述べました如く、身體の差支の起きた場合には、これを中止致しまして、今度再び始めるに、何時からやり出してよろしいか、見當が付き兼ねまして、其後は、冷拭法に改めました、何んでも、中學生の頃から熱心に實行しました、それまで毎年冬

分春夏秋に數回位も寒冒に罹つたのが、此御陰で段々に丈夫になりました、トテモ修業など出來る身躰で無いと皆んなに云はれた者でしたが、無事に通ッて參りましたのは衛生に注意した爲めと確信します、それで、此法も、今日迄十年餘り續けて來てゐますが、毎年寒冒にかゝることが少くなりました、充分注意すれば一年に一回位、また失策りましても二度位しか風を引かぬやうになッて大層喜んで居ります、夫故、他人には熱心に御勸め申度いので御座ります、寒冒と申すものは「インフルエンザ」の初めか、腸窒扶斯の初めか肺炎の初めか、又は肺病の初めてでもありそうに思ひまして、他の病氣例へばお腹が痛むとか、下るとかなどよりて一層恐ろしく思ッて、何時も心配致します、風冒を引かぬよを何よりも喜んでゐるのであります、ドウカ、皆さん、冷拭法をお始めになりまして、此冬は風を引かぬ御用心あらんことを翼望致します。

同じことはやめまして次に、

●旅行の注意の一ッ二ッ

旅行案内を讀んで見ますと、道中に必要なる用具例へば蝙蝠傘だとか、鞄だとか、其鞄の内には斯云ふ物品を入れて置けとか、など〻色々親切に實用的に書いて、あッて旅行する人の爲めには、便宜のことと存じます、これと同樣に、若し道中をする人の爲めに、衛生上の心得になることを書き列ねたならば甚だよろしからうと、斯ふ考へまして、何時か閑を得、機會を得たならば、旅行の經驗に富んだお方に就き、充分相談をとげて、詳細に此事を綴ッて見たいと心掛けて居る位です此事に關して、若し皆さんの内に、何か質問として或は何か其他の點に御氣付のことあらば、どうか、御申越を願ひ升、それによりて、私の方では色々參考として、後日書き列ねる時の題目と致度い所存であります、私の友人に、大層旅行好きの人がありまして、日本中は大抵旅行し盡されました、數年前其方が旅行記を書かれまして、私に旅行中の衛生上の注意を書い

て呉れと頼まれまして、豫て思ッてゐる事を少しばかり書いたことはありますが、固より自己の考だけて、不完全であります其後やはり此事に注意して居りまして多少考付いた點もありました、今回は、餘り長文となると困りますから、唯一ッ二ッの事を述べます、

●旅行携帶藥の注意の事

元來旅行上の注意に於ても旅行其物に色々ありまして、長き旅短き旅汽車船舶、或は、人力車時には歩行、それからまた、旅行をする土地柄の便不便次第て、一概には申されません、或は時候の如何に關し、或は諸處を巡ッてばかりゐるのでなく、夏分の避暑に一定地に逗留するとか、冬分の避寒に又一定地に滯在する等をも旅行の内に含ませればそれ〱く、一まとめに、充分都合好く御話するのは六ケ敷事情も違ッて參る譯合です、ですから、ドウモ、甘くあります、また、旅行中の携帶藥と申しましても必要のあることもあり、また少しも必要のないこともあるので、例へば若し此夏に鎌倉のやうな便利の土地に避暑をなさるならば彼地には中濱先生の診察所もあり平塚には佐々木先生の病院もあり病氣の起ッた場合には、何時でも、安心して治療を受け得らるゝので、藥など持出す迄も無いと云ッたやうなものでしよう、けれども、不便の土地て、何んな醫者が居るか居ないかも知ッて居らず急病でも起ッて醫者を探がして迎へる迄に何か有效無害のものを病人にやッて置かうとか、或は、醫者迄煩はさなくともよい程の病氣（例を以て云へば、平常咽の惡いお方が、出先て咽を痛めたから含嗽でもしようとか）てあるとか、云ふ樣な場合に用ふべきものを準備して持ち往けば、大に安心であらうから先づ〱そこ等の程度のものに就き注意を述べ度いのです、是に先ちて是非とも御承知を願ひ度いのは、私は。

●素人のお方に藥の使用を敎へ申すのは非常に謹むべきことである

と云ふ考を一言申上ます、是は、勿論、醫者が付

いてゐて、そして、醫者の與へた藥を用ひさせる事即ちあたり前の自宅での病氣の時に、此藥は一日三回食後に召し上れなどと敎ふるのを指すのではありません、全く、醫者が居ないで、素人が、自分の考て、藥を使ふと云ふのでありまして、或雜誌などに素人のお方に向い、かく〳〵の病は、かく〳〵の症候があるもので、それには、何んと云ふ藥を、どれだけ飲めばよろしいなどと書いてあることを指すのです、其藥には、劇藥以上のものも含まれ居り、素人には、買ふことも出來ないし、又調合も容易で無いし、又分量を誤れば大害を來すの恐れもあるのを容赦も注意もなく、書いてあるのがあります、こんなことは、素人方の爲めになることがあるかも知れませんが、苟も醫學の智識をもッて居る者には、出來ないことだし、又、してもよろしく無い事であると存じます、殊に、素人のお方には、如何にお敎申しても、病の診斷即ち、此病は、何々病であると云ふことを、定めるのは甚だ六ケ敷のです、殊に、病の内には實際別々の病であッても、互に似寄ッて居るのがありまして、これを、區別するのは、類症鑑別と申して、仲々容易でない、こんな場合に、診斷を誤てば、從ッて療法も誤ると云ふ譯です、それ故に素人のお方にはあまり、詳しい事をお敎へ申し且つ通常藥でない劇藥の部類のものまでお示し申すなどは無責任の事で、万一、間違が生じて來た場合にはどうすることも出來ない次第であります、夫故私は皆さんにお話申上げるのにも、萬已むを得ぬ場合を除き、凡て此方針を以ッて進む考で御座ります、そこで、藥のことをお示し申すのにも、可成誤りのないやうな、可成無害をもとする藥を以てするやうに御話するのであります、元來本會々員のお方々は、病氣の節は已むを得ぬ場合のほかは、必ず速に醫者に御相談さるゝことの必要を御承知であり、また、醫者におかゝるになるだけの準備はあるのでありますから、大抵は醫者に御相談あることと信じます、怪しげなる病氣の症候など書いてある

書物をもとヽして醫者に相談も無く自分で薬を用ひるやうなとは決して御座りますまいと存じます、本誌の質疑欄で色々お答になる諸専門家の處方などもやはり、素人療治に差支の無い、危險の無いものをお示しになッてゐるやうに見受けまするのは、つまり私共と同感の爲めと存じますドウカ此事は呉々も御含み置きを願升次に

●薬の間違の無いやうに

致度いのてすが、是は三宅先生が看護法の方にもお述べになッてゐるのです、旅行先に持ち出す薬は必ず、其の薬名、用量、用法、作ッて貰ッた（又は買ッた）月日等を外包に明瞭に書いて置いて、そして用ふる時には、必ず、一度は熟讀して、そして、初めて用ふると云ふことと致度いのてす、紙袋に入れ違へた爲めに、トンデモナイ、失策を招いたと云ふ話も聞いて居りますから、用ひた薬の始末方にも注意が必要です、是は、少し例へ方がちがひますけれども、今月の醫學雑誌に、喘息散を申して、喘息を患ふる病人が、之を燃いて其煙を嗅ぐべきものであるのに、此薬の外包が、彼の「ソマトーゼ」と云ふ、滋養薬として服用せらるる薬の外包を以て包んであッた爲めに、燃いて嗅がないので、「ソマトーゼ」の包み紙に書いてある效能書其儘に信じて、喘息散を牛乳に混ぜて呑み、一時間經てから、中毒を始め大層苦んで、三四日間は非常に難儀を致したが幸に、生命には別條なかッたと云ふことを書いてあります、是は、西洋の話を譯してのせたのですが、コンナ事も有り勝ちでしようから、此同様に、氣を付け度いものです、次に、此處で今一ッ述べますのは薬を作ッてから、ドノ位經ッたのは用ひてはよろしくないか、と申すに、醫者に作ッてお貰へなすッた物は其方に御尋ねを願ふのです、仲々薬も色々であるから、一概には申されませんが、トニカク、薬も貯へ方がよければ長く持ッし、貯へ方が惡ければ長くもたないのです、散薬とか、丸薬などは、可成、風の當らないやうに、濕らないやうに、餘り明るく

無い所に貯へるのがよろしいのです、それには共口の廣口瓶に入れてそして、よく口を塞いで濕氣の入らぬやうにし、戸棚とか、箱などの内に納めて置くのです、物にもよるけれども、斯うして貯へれば、一ヶ月や二ヶ月乃至半歳位はよろしからうと存じます。

賣藥の類にて色が變り、また黴の生えたのがあります、而も其效能書には、こんな變化があッても差支無く服用してよろしいとしるしてあるのを見ましたしかしながら、之は宜敷無い事と存じます、のまないのがよろしいと存じます。





醫學博士坪井次郎先生の遠逝をかなしむ

醫學士　石原喜久太郎

京都帝國大學京都醫科大學長同衛生學教室主任博士坪井次郎先生には、六月頃より心臓病を患へられまして、七月の初めには京都醫科大學の醫院に入院致され、種々治療に手を盡されましたのにも拘はらず、終に、七月の十三日に溘焉逝去致されましたのは、誠に、國家の爲め吾が衛生學の爲め、歎かはしき極みであります、私共が、同先生のことに就き、申述べる迄もない事ですが、同先生は長く本會の爲めに御盡力なされてゐるのですから玆に少しく私が承りまし

た事を述べまして、皆様と共に同先生を追悼致します、

坪井先生は、明治十八年に東京の醫科大學を卒業致され、すぐに緒方先生に就かれまして、衞生學の研究に身を委ねられました、初めには、東京大學御用掛と云ふ職名で、直き後に醫科大學助手になられ、二十年には同助教授に任命あり、二十三年に至りて官命により獨逸國に留學致さるゝこととなりました、洋行致さるゝ迄に、衞生學上、種々、研究をとげられ、世に公になされました論文は、いと澤山あります、獨逸においてになッてからは、ミユンヘン大學の衞生學敎室で、有名なる衞生學の開祖マックス、フオン、ペッテンコーフェル先生に就かれ、其處でも非常に研究を重ねられて、其研究成績を獨逸醫學雜誌にのせられしもの數多く御座ります、ミユンヘンに居られました頃、發表になりました論文の中には、ペッテンコーフェル先生の高弟、エムメリヒ先生、其他のお方と共に御研究になッたのもあります、坪井先生の御名前は彼地でも大層知れ渡ッてゐると承りました、丁度滿四ヶ年、留學致されまして、明治廿七年十二月、無事歸朝致され、それから後は、やはり東京の衞生學敎室に於て御研究を續けられたのであります、京都大學が出來ますに就て、卅二年七月に、京都醫科大學の敎授となられ同醫科大學長に任ぜられまして、醫科大學の事何くれとなく御盡力になり、爲めに京都醫科大學今日の完備を得たと申す事であります、

坪井先生の學問上の御經歷はザッと右の如くであります、不幸、短命で御亡くなりになりましたのは誠に惜ましき極みで御座いまして、醫學界の爲め、邦家の爲め、大なる損失であります、同先生には本會、でも皆さんの爲めに、度々、講義など致され、色々と力をお入れになつたそうであります、本會に取ッても甚だ殘念の至り

て御座ります、乍併、譬へ先生は亡くなられましたにしても、先生が學問の爲めにお盡しになり、澤山の研究成績を世に公に致されましたことは、實に、永久不滅の事業であります、先生の御身は此世を辭されましても、先生の學問上の御靈は決して亡くなられは致しませぬ何時迄も後々の學問界を導かれ、恩澤を與へらるゝのであります、玆に後進の不肖がかねて聊か承はッて居ります事を書き列ねまして本會々員諸姉と共に、故先生を追慕する微意を表するのであります、

明治三十六年七月三十日　謹識

高崎支會講話

●水谷藥劑官講話摘要

高崎支會員某子寄稿

来る八日には我支會の例會を開かれ此度は諸先生より目下日常家庭に必要なる種々の夏期衛生に係る講演ある由に傳へ聞き嬉しさに今より其日の來るを指折り待ち焦れつる折柄アト去る七月例會の事を思ひ出て其節も左に記すが如き要用なるお話ありし故獨り會員のみに私するに忍びず聊か世の方々の御參考にもとをこがましくも手帳に認め置きたる鉛筆の跡と耳底に殘る概略を書集め參らすにこそアハレ貴重の餘白を割愛せられてよ稿中文字の違ひもあらん聽き誤り承はり漏れも多かりなんソハ拙女の罪なれば此點は講師の君にも皆様に

も前以てお詫して後の御敎示を祈り侍るなり

醫者の話しに夏になると世人は一般に胃腸を傷める即ち消化器の疾患に罹る人が多いとの事で、これには色々の關係もあらん、なれども飲食物の不注意より所謂る口の不攝生不養生より由來するのは其最大原因であらう、で今日は飲食物の內時節がら家庭に於ける夏の飲料について御話しを致します尤も飲料と申しても酒精含有の日本酒、麥酒、葡萄酒等其他あらゆる酒類を省きます

一體夏でも冬でも非常に胃を冷し又熱すると云ふとは生理上尤もよろしくない、たとへば夏の日遠足を試みると一時非常に渇を覺へて身體も疲勞する此の時に氷なり又は冷水なりを飲むと忽ち消化器に急激なる變化を及ぼして腹痛を起し甚しきは卒倒するよもありますよしや夫程のこともなく一時淸凉の心地を覺ゆるもすぐと又渴を覺ゆこれ已に胃に變狀を呈したる徵で今まで活潑にあつた消化器が俄かに働きを鈍らし從て攝取する食物の消化を妨たぐるものである

さて先づ氷水の事より御話しします氷は御承知の如く水の寒冷に遇て固體に凝結したもので當節は之れを販賣しますには氷雪營業規則とか云ふものができて一々品質の良否を試驗した上ならでは販賣を許可せぬとになつて居りますが中々勵行ができぬと見へて時に規則上如何はしきものを實驗します塵埃等の如き目に見ゆるものは素人の方にも分りますが目に見えぬ衞生上有毒物は中々少くありません

先づ氷屋の店頭に立て御覽なさい中には充分衞生上の注意を守りて營業して居るものもありますが又多き氷屋の中には全然其注意を缺いて居るものがある樣に見受ける即ち氷の上には白色と云ふよりは寧ろ狐色に變じた布を載せあまり淸潔ならざる手を用ひて氷削りの下に受くるコップ、若くは皿は果して洗滌充分なりしものなるや否や、たとひ恐るべき肺病患者に進めしものを更に乙の人に進むるに安心なるべき程度にまで消毒行屆きあるや甚だ疑はしきとな

り、又使用する糖蜜中には人工甘味質「サッカリン」の如きものを含みあらざるや否や砂糖は蠅の進入を防ぎ蠅糞を混せざるや否や又作用する金屬匙は果して衞生上無害のものなるや鉛を多量に含み居らざるや甚だ疑はしい、現に予の如きは多量の鉛を含むものを實驗せしこと二三回に留らざりき

かく申せばたとひ生理上氷は消化器を害すること少なしと假定せしも決して安心して用ゆべき飲料ではないと考へるましてや消化器に急激の變狀を呈するをやです

本會員の御方には左樣の事は斷じてなけれども炎暑の時己知の家を訪問すると其家の細君はいかにも氣を利せた積にてすぐ氷屋に下女を走らし氷水を客にすゝめる客にとりては迷惑千萬の話て又主人側にては金を費しながら自家の衞生上の注意の到らぬことを發表するので誠にひきあはぬことであります

予は氷屋の店頭に千客万來の有樣を見るたびにいつも個人衞生の幼稚なるを慨歎するのであります

歐米人の我國にある中等以上の人は日本人の無暗と水を飲むを見て驚いて居るそうです皆さんの野蠻視せらるゝ臺灣の苦力の飲料をとるを見るに炎天爍くが如き日、重荷を負ふて山河を跋渉する時ですら冷水を飲みません必ず適度に冷めたる煮沸水を用ひます誠に衞生上自然の發達を致して居ります

さすれば夏の飲料は何が一番安全にして且つ適當であるかと云へば良水をしかも一度煮沸し適當に冷ましたるもの即ち煮沸水を用ゆること臺灣人に倣はんことを希望します

水にして水源淸く從て理化學及細菌學的、其品質の良好なるものを得らるゝなれば煮沸するに及ばず其儘使用して決して害なきのみならず衞生上大に常用すべきことであるが悲いかな當高崎には一も煮沸せずして直ちに飲料に安心なるべき水は絕無である、先日來群馬縣廳から衞生技術員とかゞ當市役所内に出張して當市の井水を殘らず試驗しました此の試驗中予は二三回市役所に行きて試驗の模樣を見ましたが

中には随分甚だしき化學上不良の反應をあらはすものもありまして、おもに下水溝の不完全なるより不潔水の井水に反流する結果と認めらるゝものがまゝありました、又中には理學上及び化學上、良水と認められしものも見受けました、しかし試驗のやり方は加之のみならず理化學的試驗と並んで是非行はざるべからざる細菌學的の試驗をやらなかつたから愈々此の井水はよいとか此の井水は惡いとかを判斷することは餘程六ケしからん水は一見清澄無臭無味なりとも決して良水と速斷することができません其中には如何なる「バクテリヤ」類を含んでをるやも知れません又一見惡水らしきものも一回漉しさへすれば存外良水となるものもあります、善良なる水道の無き間は兎も角自己使用の井水なり河水なりについて屢々試驗を行ふと云ふとは尤も必要であります

當高崎市もどうか水道を敷設せらるゝ計劃ぢやそうですが何卒一日も早く淨水を口にする樣いたしたきものであります、併し夫れまでは已を得ませんから従來の習慣上良水と認めしものを一回砂漉しにし先きに申せし樣に充分煮沸し飲料に供するより他に良方法がありませんと思はれます

一度び煮沸して冷却したる水、所謂素湯は蒸溜水と同樣にドーモ味がありません、これは煮沸の際に炭酸を揮散したからで生水を飲む樣な譯には行きません、是れは高崎の樣な衛生上幼稚なる市に住んで居る不運不幸とあきらめるより外ありません

序に申ますが雨水を天水と唱へ其儘飲用する人がありますが雨水でも初めは清潔無垢でありますが降下の際空氣中の種々なる瓦斯類を含有し存外不潔なものであります

次に茶の話しに移ります、茶は昔時より我國上下共に飲用に供したるもので古書を繙きますと聖武帝の御宇に已に茶事の記載があります、今日では茶を以て日本國民的飲料と申しても差支へありません、此の茶を飲料に供するにも諸學者の研究によりますと適宜に喫するに於ては衛生上無害なるのみならず大

に生理的利益あるに歸着して居りますが其度を過しますと何分茶の中には茶素と申す毒物と單寧酸とを含んで居りますから宜しくありません、此の適宜に飮むと云ふ事について面白き話しがありますから御笑ひ草までに申上ます昔時一人の僧がありまして水石幽閑の場所に茶を烹る時、遙かに田夫の耕鋤するのを見て呼びて茶を喫せんかと云ひました、所が田夫が問て曰ふに、茶は如何なる功徳がありますかと、そこで僧の曰ふには茶には三つの徳がある、即ち一は能く眠りを少なくす、二には能く淫慾を省く、三は能く食を消すと、そこで田夫は暫く考へて居て言へるやう御話によりては貴僧の三徳は愚夫の三損と思はれる、なぜならば愚夫は日々星を戴て家を出て日沒まで汗を流して耕耘に從事し家に歸りての樂みは安眠を得て勞を慰せんとするのである、しかるに眠る事少なくなれば體氣全く蘇息するを得ない從て明日亦働くとができぬ、農は賤業ではあれど之れを祖先より傳はり自分も亦之れを子孫に傳ねばならぬ若しも淫慾を省くならば何を以て子孫を得ん、且つ愚夫は貧にして菽麥常に腹に滿たす、食する所の者速に消化せんことを恐れる、是れ愚夫にとりての三損にして貴僧の賜を敢て拜辭せざる所以なりと申しました、蓋し此の言たる諧謔に出づるなれども古より茶の効驗に就て行はるゝ説として、今日の學説を以て考へますも其説所以なきにあらずです、兎も角唯之れに用ゆるの量如何によりまして各自に損益あるのであります

茶の序に一寸「カッヒー」の事を申します、珈琲は珈琲樹より得る果實中にある核をひき出して炒つたもので、上等のものは「アベッシニヤ」に産しまして我國にはいまだ産しません、故に目下我國に使用してあるものは輸入品で此れも茶と同じく適宜に喫しますと宜しくありますが度を過しますと宜しくありません、のみならず「カッヒー」には往々贋造品があります、即ち貯藏久しきに渉りたるもの或は一回使用せしものを藍及鉛、銅、鐵等の鹽類にて着色し若く

は目方を増して胡麻化します、其胡麻化し方は中々巧みに出來て化學的の試驗では忽ち化けの皮が顯はれますが素人目には中々分りません「カッヒー」でも豆そのまゝのものは僞物も少いが粉になりたるもの世間に澤山ある彼の「カッヒー」糖抔は試に危險のもので、これも予は二三回全くの僞物を發見した事があります「カッヒー」を飲用さるる方々は御注意なさつて贋造物を掴まぬ様西洋人の飲み滓に貴重なる錢を費さぬ様に願ひたきものなり

そこで、古來我國に於て茶の代りとして飲料に供せしものは随分多くあります即ち大麥又は黒大豆を煎炒て麥茶又は豆茶をつくり其他枸杞茶、五加茶、エンドウ茶、通桑茶アマ茶等其他尚ほ澤山あることゝ思ひます併しながら、どれも皆前に御話せし茶の中にある茶素を含んで居りませぬから眞正の茶の代品とする事ができず從て茶が有する様な興奮作用がありませんが麥茶、豆茶を省き他は皆單寧酸を含んでありますから多少澁味があります麥茶豆茶は茶素も單寧酸をも含んでありませんから多量を要する夏の飲料には適當と考へます、特に自分は麥茶を賞用します、此れに少量の食鹽を加入し冷却して使用し尚ほ一層冷液を要する時には純粋なる氷のかたまりを中に浮べて用ゐらるれば至極と存じます

次には清涼飲料水の御話しに移ります清涼飲料水とは三十三年の内務省令に依りますと「ラムネ」「リモナーデ」(果實水、薄荷水、及び桂皮水の類を含む)曹達水其他炭酸含有の飲料水を云ふとあります、そこで先づ當節市中到る所に販賣いたして居りますあの玉入の瓶にはいつてある「ラムネ」此れの取締り規則が中々嚴重でありますにかゝはらず中には随分甚だしき不良品を見受けます、第一「ラムネ」は素人方に不良なるや否やを鑑定さるゝには瓶を静かに倒にして底の方を御覧になれば底の方よりむら〳〵と沈澱物が起ります此れは已に不良の徴候で省令では禁じてあります、次には溷濁してあるとてです、此等は使用する藥品の不潔なると使用水の不良なると瓶の

・洗ひ方の粗末なると及び製造法の不完全なるから來るとて、其他外觀清潔なる如きも綿密の化學試驗を行ふて見ますれば使用すべからざる藥品を使用したり或は炭酸瓦斯の洗ひ方が不充分なるため飛んだ毒物を含んだり又口部にある「ゴム」の輪との輪の中に鉛を含んでありしため「ラムネ」中に鉛を見るとがある併し尤も屢々遭遇する不良手段は「ラムネ」中に甘味を付するために砂糖の代りに「サッカリン」を用ゆるとです、近頃東京の新聞を見まするに規則違反として罰せらるゝ「ラムネ」の多くは此の「サッカリン」を用ゆるからとのとてす元來「サッカリン」は少量に用ゐても砂糖の如き甘味を有て且つ防腐性を有するものから從て砂糖を使用するよりも非常に經濟なものですから少々の罰金、少々の沒收位いは覺悟で斯樣の事をするそうで、誠に利益の外何者をも見ませぬ奸商輩の所業惡むべきて當局者の骨折りも察せられますが飲用者に於ても個人衛生上宜しく注意されたきものてす

又瓶の口には大低製造年、月、日を記したる紙を貼つてありますが中にはどうも怪しきものがあります、當市抔には決してありませんがある所では「ラムネ」製造所が小賣人に幾枚も口紙所謂封緘紙を渡しをき小賣人は適宜に日を記入して貼るそうですが此の事は規則上大變に嚴重で罰金どころでなく監獄へ入れるとになつてあります

次に又市中の店頭にみかん水、桂皮水、薄荷水抔と稱し着色せし液體を賣つてをります此等の中にも衛生上危險の色素を使用するものがあるそうで、先日も東京で小兒が桂皮水を飲んで中毒したと見えました、此等はお子供衆を持たるゝ御方の御注意を望みます

此れより家庭に於て至極安全に經濟に良味を有する清涼飲料水の造り方を一二御話しいたします其の藥品の調合は左の通りてす

(一)炭酸を含めるもの

重曹一匁　拘櫞酸八分　白砂糖十三匁　煮沸冷却

水一合　レモン油一滴

（二）炭酸を含まざるもの

拘櫞酸八分　白砂糖三匁　煮沸冷却水一合　レモン油一滴

今日は少々原料の用意を致して參りましたから實地に製法を此れより御目に懸け併せて御風味を願ひます）即坐に調製の上會衆一同に分配飲用を試む）本日の講話はこれで御免を蒙ります長々御退屈をかけました（完）



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に性名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なし●本號の雜誌に登載する文は凡前月十五日迄に甲込まれしものとす

●わきがの質問に對する竹中先生の意見

緒言

過日の貴誌に「わきが」の質問あり予、聊か之に關し物せるものあり稍々專問的なれども素人諸君にも無論理解せらるゝを以て敢て之を貴誌に致し以て素人諸君の側より予の説の批評を乞はんとす

●腋臭　Bromhydrosis axillarum.

醫學士　竹中成憲

腋臭とは腋下の汗腺分泌物の臭氣を帶ぶるものをいふ醫語は「臭汗」Bromhidrosis に相違なきも普通の書は足部の本症を述べて特に腋臭に論じ及ばざるが如し洋人の足臭は靴を穿つて以て恐らくは多く且重大視さるゝならむ本邦に於ては腋臭は極て多き疾患にして徴兵免除の如き重大なる關係あるを以て宜しく講究すべきものなり

『わきが』は西洋に在ては我國に於けるが如く之を意に介せざるが如し何となれは西洋人には現に本症多きも平氣なるが如きと吾人の『わきが』を『腋臭』と稱

し立派なる名詞を雅俗共に有するに係はらず英語、獨逸語共に一の俗語を發見せず一語を以て示すべき學術名もなきを以てなり無理に英語を以つて示せば『オッフエンシーブ、スメル、オブ、ゼ、アームピット』The offensive smell of the armpit（ヘボン氏）獨逸語なれば『エーケルハフテル、アクセルヘーレン、ゲルフ』ekelhubter Achselhoehlengeruch とでもいふべく醫語に『ブロム、ヒドンジス』Brombidrosis なる一語ありて最も之に近きが如きも此語は『臭汗症』と譯すべきものにして敢て腋下に限らず

予の考に據れば腋臭は發汗腐敗分解の結果にあらずして純汗其者に臭氣あるなり

茲に予は特に讀者の注意を乞ひたきことあり腋臭と耵聹の關係是なり

夫耵聹は人に依りて軟らかきものと硬きものあり軟かき者は恰かも水飴の如し何れが異性なるや殆ど之を知るに苦む曾て英書を讀しに『耵聹は老人に在ては濃厚固となる』Cerumeu gets in the old denser and stiffer とあり獨逸普通字書を案ずるに『耵聹は耳内に分泌する所の脂様濕氣なり』Das Ohrenschmalz ist eine fettige Feuchtigkeit, welche sich in dem Gehoergange absondert とあり何れにするも軟なるを以て生理的と爲すは勿論にして此硬軟の差は只元來軟なるもの耳内に在て漸々硬結するや或は永久硬結する事なく元來の狀態に止まるやに外ならず奇なるは或る人に在ては此軟性物硬化し或人に在ては同一物變化せざる事是なり

熟練せる理髪師の予に語る處に據れは耵聹硬き人と軟かき人との比例は凡二〇に對する一即來客二十一人中凡一人の軟者ありといふ

倍に曰く耳後の軟かき人は「わきが」ありと是大に予の興味ありとする所にして予の刀圭に從事すると茲に十有七年實地に於て此言の事實なるを認む精細の統計は未だなしと雖も略左の如き推測を爲すに到れり

一、耵聹は先天的永久軟なるものと耳内に在て硬

結するものと二種の人類あり
二、此硬軟の性質は父方又は母方より子孫に遺傳す
三、耵聹軟なるものに『わきが』あり！
是頗る興味あることとす
（療法）中村富治君或學會に於て「腋臭に對しウンナ氏の療法實驗」と題し述べて曰く
「腋臭」に對し「フヲルマリン」を一週間乃至十日間與へて大に良成績を得たり

處方　四％「フヲルマリン」　一〇・〇
　　　「ラノリン」　一〇・〇
　　　黃色「ワゼリン」　一〇・〇
　　右混和軟膏とし塗擦料とす」

蓋し特に夏期本症甚しきを以て軟膏は患者之を好まざるべし
予の法甚簡單にして奏效著明なり

處方　枯礬（燒明礬）　一〇・〇
　　　硼酸末　一〇・〇
　　右混和腋下塗擦

撒里知爾酸二、〇を右に入るれば更に良し只患者嗜するを以て之を除く

質問者　長門愛讀者

一問　私はふけが澤山出來て困り升が如何にせば少しでもへる事のありとせば御敎へ下され度候
二問　又常に寢つきがわるくて大抵一時間若しくは一時間半もねいられませぬが不眠症といふ者にや伺上候
三問　左の通りの月順のものは普通でありますか又月經不順でありますやら御伺申上候最近のおぼへ
三十五年一月十一日　二月十四日　三月九日　四月十三日　五月九日　六月十日　七月七日　八月三日　八月二十五日　九月廿五日　十月廿二日　十一月十九日　十二月廿日
三十六年一月十七日　二月十三日　三月十一日　四月七日　五月七日　六月三日　六月三十日

東京産科婦人科病院　榎本醫學士答解

一答　俗に「フケ」の澤山ある人は時々加里石鹸を以

て頭髪を洗滌すべし

二答　少し位寢付き惡しきとて不眠症と云ふ程にあらず

三答　月經不順ならず正なり

▲問　臟器療法は神經衰弱に効ありや否や神經衰弱に關する攝生法委しく承りたし

質問者　出雲ＳＫ生

答解者　慶　醫　生

●答　臟器療法が神經衰弱に效あると云ふことは、醫學社會一般には認めてゐないのです、日本で一二の人が自分ばかりに、之が諸病に效ありなど吹聴致してゐるさうですが、今日の醫學上ではまだそれを事實であると云ふことを證明しません、こんな、不明瞭な療法でなほそうよりは、他の當り前の療法でなほすのが至當と信じます、

▲問　神經衰弱の攝生法は如何

●答　神經衰弱症にも、色々經重があります、重いのは床に就いて居らんければならぬし、極輕いのは、ウッチヤッテ置いてもよい位です、詳しくは紙面が許しませんから、先づ、中等度以上程度のものを見當にお答致しましよう、

攝生法は、先づ、原因に注意し、本病を惹き起こせし原因を除くべし、例へば精神身躰を過勞して後に發せし時は此精神身躰の過勞をやめる、他の病氣の爲めに身躰の衰弱を來し其後に本病を發せし時は、先づ身躰の衰弱を回復する、又種々の不攝生的なる過度の嗜好（酒、烟草其ほか）等の爲めに之を發したる時は如此嗜好を絶つと云ふやうに本病の前に泝つて考へて原因と認むべき事及び苟も精神を過勞し衰弱せしめ身躰を過勞し衰弱せしむることは凡て避けるやうにする、是は大躰のことですが、次に素人的の療法として一層コマカに申述ぶれば、身心を休養すること、出來るならば山間の温泉場に轉地して入湯すること、然らずとも毎日冷拭法を行ふほかに、又、お湯に入ること胸がツマルやうな感じがあれば、深呼吸を二三回

行ひ仰向けになッて暫く休息すること、劇しい運動はせぬ事、散歩も疲れる迄はやらない事、按摩をして貰ふことなどよし、飲食物等にては、刺戟の強いものはやめる、辛味のものあしゝ、胃を惡くする物は殊にあしゝ、煎茶も謹むべし、「コヒイ」、「チヨコレート」もやむべし、其代理に麥湯食鹽湯を呑むはよし、煙草は全くやむべし、酒は、若し大酒家なれば斷然やむべし、また、酒が本病の起るのを助けたので無い事が明かなれば夕食の時に杯に一杯位のむは害なし（飲み度くなければ更によし）便秘あれば醫師に乞ふてなほすこと必要なり、不眠にて困るならば、これは身體に害ある故、醫師に藥を乞ふこと必要なり、心悸亢進とて頻りに心臟の鼓動が數多くなれども神經衰弱の時には恐るべきものに非ず、しかれどもやはり醫療を乞ふべし、藥の方の療法は略す、神經衰弱のことを通俗に書いたものをと鳥渡調べましたか、早稻田學報臨時增刊第八十參號、（本年五月十二日發行）、太陽第八卷第七號（昨年六月五日發行）に本病のことがのせてあります御一覽あれ

質問者　茨城　一會員

▲問　私の小兒三ケ月に相成り候もの、私の乳にて育て居り候ふに、常に青き大便を致し誠に心配致候へ共、別段差つかへ之なく候や、氣分にも異りなく、よく肥え太り、よく眠り、之と申す異りは之なく候へ共如何に御座候や

答解者　醫學士　唐澤光德

●答　母の乳にて育てらるゝ哺乳兒の大便は、黄色な、よくこなれた、別段惡るい臭氣のない恰かも半熟の卵の樣なのを常と致します、御問合の青き大便をもらしますのは、小兒の腸胃に病氣のある證據故決して油斷をなされてはいけません、殊に臭氣があつたり、水飴の樣な粘液がまじつたりつぶ〳〵がまざつたりするのは其病の重いのですから、其樣の時は直ちに醫師の下に行かれなければならない

御問合せの事丈で見ると或は母の乳の惡るいのかも知れず或は飲ませ方即養育法の不充分なる爲め、例へばのませすぎ等も知れません、もし母の乳が惡るいのならば、牛乳で育てるようにすればなほりますかも知れないが夫れも今は盛夏故に、牛乳で育てる樣にかへるのはあまり、好ましくありません、問丈では隨分の難問、專門の醫師と御相談なさるが一番いゝと存じます

質問者　石狩　一會員

▲問　妾の夫は三十八歲になりますが胃と心臟肺臟が弱いと云ふ事で鐵啞鈴をなし大弓を射冷水摩擦（摩擦すれば一時は溫まりますが後に冷へる氣味あり）を行ひ居りますが此頃は久保先生の說により深呼吸を致すに（深く吸ひ腹へ入れる樣な氣味で暫く耐へ徐ろに呼き出す）耳プル〳〵とひゞき逆上せんとする氣味あるそうてす（此れは以前にも行ひ居りましたが逆上の傾きあるので止めて居りました平生は下腹へ力を入れて居る方なんてす以上の方法の良否幷に深呼吸を持續しても故障なきや御敎示願上候

次に東京日本橋の藥店に販賣する「オキスダータ」と云ふ吸入藥は效能あるものですか次に平常俯き勝の者は之をなほす法如何に候や

答解者　廋　露　生

●答　御問合の胃と心臟肺臟が弱いとの事でありますが、此弱いと云ふことは甚だ明瞭でない詞と存じましてお答に困ります胃がドンナふうに惡るい（消化が不良でとか、食慾がないとか、胃が焦けるとか、ゲップが出勝だとか等のやうに）心臟がどんなふうである（常に動悸がするとか、身躰に腫が廻ッてくるとか、等のやうに）又肺臟がどんなふうにある（咳嗽が出るとか、痰が出るとか）と云ふことがわかりません、しかしながら御質疑のやう樣子ではトニカク全躰が弱つて居らるゝかのやうに見えますから速に醫者に見てお貰いなさい、それから、唯夫ればかりでお答せぬも不親切ですか

ら、精くはわからぬ儘も鳥渡お答しましよう、鐵啞鈴は唯今の御樣子では必要がないやうに考へます、大弓、冷水摩擦はよろしからうと存じます、深呼吸は醫者に診て貰ッて、肺に太して異狀が無いならばやるのがよし、胸が痛いと云ふのは肋膜炎があるのではないてすか、

次に「オキシダータ」とか申すものの可否てすが、こんな物は醫學社會に廣く行はれてゐないてす、夫故何とも云へません、

次に平常俯き勝の人は注意して俯かない習慣をつけるのてす、こんな人は近眼かも知れないから眼科醫にゆきて眼を調べなさい、そして、自分て腰を延ばして座はるやうに心掛け、一日數回深呼吸をする、書き物や、裁縫をするときには殊に氣を付ける、裁縫には前に低い机を作ッて据へ、これに載せて仕事をすれば幾分か俯くのを防げましよう、それから、學校てお學になッた躰操を再び勉勵致され度し、躰操は姿勢を正くする效があり升

▲問　痔の初めはどんなものですか、其養生法をお知らせください

質問者　芝　會　員

答解者　慶　靄　生

●答　痔と申すは醫者の方では痔核と云ッて外に腫物が出る分と、痔瘻と云ッて內部に孔が生ずる方とを區別します、素人のお方は何んてもこんなことは皆痔と申されます尙其他に脫肛など云ふのがありますか、今回は質疑の意味を痔核と解してお答します、（痔は峙なりとあり）

初め便に居るときと、居た後とに何か、異物（外から何か物が挾まッたやうな）の感があり多少痛みもありまた時には痒みも起る、觸れて見れば何か出てゐるのてある、押せば再び內に入る、ウッチヤッテ置く內に大きくなる、便通の硬い時には、ドウカすると、少し破れて血が出ることもある、そして便に居てしまつても、また、ゐたいやうな感じがのこる、ひどくなれば、進んて脫肛と云ふ

ことになる
養生法は便秘の僻があれば早くこれをなほす、座ツてばかりゐることや、又お腹に力の入る仕事は避ける、胡椒や唐辛の類、油濃き食物や滓の多くなる食物は、やめる、酒もよろしく無い（女の方は、酒をあがる筈はないですが）、痔核の小さい時には養生すればよろしいが、大きくなツて毎日の便通の妨害あり、仕事をすれば出勝ちであり、終に脱肛になりそうなれば手術をする、
右のほか痔瘻は速に外科の醫者に見て貰ふこと必要なり、

質問者　東北會員

▲問　數年前より頭腦痛み重く記臆力減じ日々不愉快にて苦悶常に生じ偏狹となり大に困却致し候右は如何なる病に候や且東京に於ける此病の專門各醫の方御知らせ下され度候

●答　病症は「ノイラステニー」（腦神經衰弱症ならん內科醫の診察を受けらるべし東京にては駿河台の三浦博士山田醫學士其他にも數多し

質問者　芝一會員

▲問　私は妊娠四ヶ月に候が、妊娠中腰湯はよろしくないとの事暑中俗にする(たらへぎやう水)は如何に候や御敎示被下度候

東京產科婦人科病院　榎本醫學士答解

●答　妊娠中腰湯は流產を起す恐れあり寧ろ全身浴に若かず行水は差支なし

質問者　九州の一婦

▲問　私の小兒一年に相成り候もの、元氣惡く、二三の醫師の診察を受け候處、皆腦膜炎の下地だと大變だからと申され候、腦膜炎とは左樣に恐ろしき病に候や、又其下地とはどの樣な事に候や御伺申候

答解者　醫學士　唐澤光德

●答　腦膜炎と申す病氣は、最も夏期に多く、また年齡も一年內外に多い病で、小兒科の病中で一番恐ろしい病、之にかゝつたら、十中の八九迄はと

ても助からない位、重い病です、其下地と申しましても、いろ／＼で、一樣にまゐりませんが、其大畧は、まづ小兒が何となく樣子がかわつて來て、元氣が惡くなり、同時に腸胃の病がある時の樣に惡るい大便をしたり、また五六日乃至二三日位宛の便秘し通じのない事などがあります、其内に少しの熱が出て來たり、小兒が非常にやかましくなつて從來すいた遊びをいやがり、非常に泣いてあばれるかと思へば、また急に靜かになつて平常ねない時分によくねたり致します、其内に吐きが來て、乳をのむと直ぐに乳をはいたり、少し大きい小兒になると頭を非常に氣にして、手を頭にやつたり、母の胸に頭を押しつけたり、又頭痛などを訴へます、之が腦膜炎の中で一番恐ろしい結核性腦膜炎の下地とでも申しませうか、腦膜炎にもいろ／＼種類があり、又相違がござゐます、一樣には申されません。



研究欄（會員より寄送を望む）

●百日茄子の漬け樣

此漬け方は嘗て記者の本會幹事羽田夫人の話されしものを聞き書きしたるものなり

秋季に至り一口茄子を疱丁を當てず爪にて其蔕を取り之を水にて洗ひ山かけ一升の茄子に鹽一合五勺の割りにて一夜壓をかけ可成細長き瓶に漬け置き翌朝其茄子を取り上げ其跡の汁に酢(す)一合辛子四合糀小板一枚(五六合)を入れよく攪き廻し其攪き廻はしたる糀と辛子の混りたるものを茶呑茶碗に凡一杯程取り置き其跡へ先の茄子を入れ万遍なくかきまわし前に取り置きし糀辛子を茄子の見えぬ樣上に塗り其上に竹の皮を覆ひ壓し蓋をし又其上に上蓋をなして

紙にて目張をなし百日置くときは鼈甲色となり砂糖味淋を用ゐずして穏かに甘くなり其味ひ極めて宜しく翌年三月頃迄は食事に供し得べしと、是れは石州津和野の漬け方なりといふ

●即席茄子の漬け樣　羽田幹事談

大いなる茄子を先づ六ツ切りとなし之を甘鹽に一夜漬け置き又別に糀小板一枚(凡五六合)に醤油をシタ〱に成る程入れ是れも一夜置くときは翌朝になり糀は醤油を引きよき加減となる之れに辛子三合酢五勺程入れ能く攪き廻し夫れより前に甘鹽に漬け置きし茄子を固く絞り(此汁は捨て去る)之を第二に造りたる麹と辛子酢の中に攪き廻し糀のぬけぬ樣瓶に入れ茄子の顔の出ぬ樣になし紙を掛けて置くときは二日目位より食膳に供すべし是も味淋砂糖を用ゐずして其味ひ美なるものなりといふ

寄稿者　Kaubara. Waka.

●鱠の洗　すゞきは洗ひに造り酢味噌にてよし又二杯酢にてもよろし洗ひとは魚を刺身の如く切り鹽を少し振りかけ暫時置き又冷水に洗ひ夏は水を添へて出すなり(二杯酢には砂糖少量入るべし)

●鰌じる　牛房をさゝがきにし水に浸し暫くあくを去り味噌汁を仕立煮え立ちたるとき右の牛房を入れ煮へたる頃鰌を入るゝなり鰌は小なるものは全身のまゝにて可なり又大なるものは骨抜となすべし夏期最も良し

●正誤　前號雜誌料理法中茶碗蒸し種物の部鰮の蒲燒は鰻の誤りに付玆に正誤す

中外彙報

●催眠法

狩野病院長の催眠に關する説を聞き其中途を拔萃せんに

▲催眠方法　にはよい方法もないので醫學社會でも困つて居る問題である、なぜ困るかと云ふに藥で眠るのも持續すれば害がある酒を飲んで眠るもの害が

ある、今日俗間に評判ある催眠術の如きも神經の細胞に疲勞を與ふるもので眠るに就ての疲勞を招く、併し夏の暑さが原因で眠られぬのは戸を開けて涼しくすれば眠られるので譯のないとてあるが開け放しと云ふとは危險である盜賊の憂がある曉の冷氣に遭へば腸胃を傷めるそこで十二時過は戸締りをも必要となる、それ故眠り方も研究せねばならない

▲晩食の注意　前にお話した通り體溫は食物にも關するもの故特に夕の食事は滋養あるものを小量に取り胃の腑を膨脹させぬ樣心がくるが第一である、いくら酒客であつても可及的飲まぬ方は宜しい、二日三日は困難もしやうが慣るればなんでもない、實驗すれば自ら悟るものである、煙草も其の通りです云々

▲狩野氏の睡眠法　氏の專門とする神經衰弱の患者は眠られぬと云ふのが一番多い徵候である、それで藥效の顯れぬ內に不眠を訴へられて困るそうかと云ふて何分睡眠藥は贊成せぬ故色々考へても見、調べても見たがあまり感心したものもない、あつても實行の出來ぬ事柄が多い、そこで余は左の方法を勸める、始めは床に起き直り自分で自分の兩側の眺腸部を靜かにもむ一側大略五分以內で宜しい、そうすると手が相當に疲れるそれから仰に臥る臥たなら心を虛にするために一二三を緩やかに數へながら靜かに深呼吸と同時に緩徐りと胃部の按摩をするのである、其回數始めは一二三を十五位迄數へる次には三十位迄數へる此樣に二三回反復する內に眠に就くといふ云々

●女子と心臟病　結婚後に於て女子の心臟に影響を及ぼすことは男子より甚だしく其原因は未だ明瞭ならざれども感動を强ざる事が慥かには一の原因なるべしといふされば生來心臟に缺點ある婦人は結婚後更に其欠點を高むることありといふ

●東京市の死亡原因調査

東京市最近の調査に據れば市內一年間死亡總數は二萬八千九百六十四人にして內男は一萬四千九百四十

九人女は一萬四千〇十五人なりとす今死亡原因調査は左の如し

腸窒扶斯	二九五	赤痢	八二
實扶垤利亞	二二一	脚氣	一四九〇
黴毒	一六八	インフルエンザ	一五〇
發育不全	九六〇	結核消耗	六六一
老衰	七七〇	胃癌	五六二
精神病	一七八	腦膜炎(單純)	二〇九四
結核性腦膜炎	三一八	腦出血	一七七八
破傷風	一四〇	氣管支炎	一三〇二
肺炎	一八九八	肺結核	四四一二
胃加答兒	七七三	窒息	五二
轢死其他	二一	溺死	一六五
縊死	一〇〇	毒藥	二六

●脚氣に關するエルマン氏の報告　去る五月三十日クリスチヤナに於て諾威學術協會大會を開き席上博士ユーヲエルマーン氏は脚氣病調査の結果を報告したり同氏は從來醫界に行はるゝ處の學說を擧げたる後脚氣病源として左の斷案を下せり曰く脚氣病は神經炎の東洋的命名にして其病源は腐敗せる野菜食物又は腐敗せる肉食に歸す可きなり而して野菜的症候は亞細亞的脚氣と密接なる關係を有し且つ通常腐敗せる米食を爲すに基因す又動物的症候は特に歐羅巴の航海中に發する脚氣と密接し且主として腐敗せる肉食をなすに基けり本病に對て「リム汁」馬鈴薯等の特に著るしき効能あるは恐らくは其食物中に含有せる植物的酸類が其病毒を消滅せしむるに因るものならん斯くて脚氣取調委員は右の斷案に贊同し左の事項を決議したり

第一、罐詰の食物を食用となすを禁止する事

第二、溫暖なる氣候中は縱令些少なりとも脂肪性食物を取るべきこと

第三、常に馬鈴薯及び其他新鮮なる野菜及び果實類を食用と爲すべき事

以上は諾威學術協會に於ける發表の大要なるが我國に於ても既に山極、榊兩博士が脚氣の病源を試驗したる結果米の中に含有する毒分の作用なりと斷案せることとあり

東西の兩洋自から其食物氣候に異同ありと雖も東洋的脚氣は腐敗に近き野菜米魚肉に起因し西洋的脚氣は腐敗に近き肉食罐詰及び野菜に起因すると云ふ

は略其病源に近く然して之が療法としては新鮮なる野菜菓實馬鈴薯其他脂肪分に富めるものを用ゆれば大に効能ある可しと時節柄同病患者の參考たる可し

●我邦に日射病の少なき原因　歐米の諸國に於て炎熱酷烈雨氣少なき年には日射病に罹り斃死する者甚だ多けれど日本にては昨今の如く炎暑甚だしきに拘はらず該病に侵さるゝ者の至て少なきは全く日本の氣候が大陸的にあらずして自ら空氣の乾燥少なく自然大氣中に水分を含むこと多きに依るなるべし元來該病は體中の水分汗となり又は激烈なる呼吸となりて體外に蒸發散盡し全身の水氣欠乏する爲めに血液凝滞して循環を妨げらるゝに原因するものなりといふ

●午睡　午睡をするのは行儀が惡いと云つて武家の家庭などでは嚴禁した事もあつたそうだし又午睡は身躰に害があると云つて務めて之れを避ける者もあるそうだが風儀の上からはイザ知らず衛生上害のある事は未だ認められないばかりか却つて夏は午睡をした方が有益だと思ふ併し冷へるのは宜ろしくないから眠つても差支ない丈に毛布でも掛けて寢たら宜らう夏は身躰の機能衰へ易く疲勞しやすいゆゑ午睡をすれば疲勞衰弱を恢復して更に新しき氣力を生じ休み〳〵働くやうになるから夏の健康上午睡は適當な事と思ひます云々右は瀬川博士片談の一節なり

●飲料の注意　警視廳衛生課永島技師の談によれば坊間に鬻ぐ清涼飲料水はサマ〳〵の名を附けてあるが其原料に大差はない、目下溽暑の候に向ひ渇を癒す爲め清涼飲料水の需要は頗る多きも往々衛生上有害なる品を飲料とし健康を傷ふ事が屢々ある左に記すは警視廳衛生課の永島技師が其飲用上に就て注意されたもの、時節柄心得置くべき事である

▲縁日のラムネ　清涼飲料水にはラム子、ジンジヤーラム子、ジン〳〵ビア、蜜柑水、苺水、葡萄水、檸檬水、アヅマルート抔色々の名を附けたものがあるが、之れを飲用する場合には衛生上充分注意しなくてはならぬ偖品質の良不良に就き一見多人に分る

のは濁つて居るとか、沈澱物があるとか、變敗して居るもの、之れは罎の儘透して見れば直ぐ分る若し斯の如き徴候のあつたら決して飲料とはならぬ緣日抔で賣つて居るラム子には斯ういふ品が往々あるに夜中點燈の影暗き處で能く檢査もしないで飲むのは危險な事である

▲綺麗な色　溷濁又は沈澱物がないからと云つて綺麗な色づいたのは用らるは宜しくない一寸見ると如何にも凉しそうに見えて咽喉の渴いた時は直ぐにも飲みたいやうだけれど之れはテール色素と云つて其綺麗な着色中には砒素、亞砒酸抔の溶解されて居ることがある、砒素や亞砒酸は云ふ迄もなく毒質のもので健康上頗る危險物なる事は誰しも知つて居らう

▲甘味と酸味　扨之れ等は罎の儘見分けの付く事なれど以上の徴候なければとて直に嚥下すは危險である先づ口へ含んで味ふが能い其味ひの中に甘味の永く舌に殘るは「サツカリン」を含み之れは蜜柑水に尤も多いが斯の如き品を飲用すると日本人の性として直きに嘔吐を催し從つて胃腸を害するやうになる、次ぎには酢に類似した臭ひと味ひのあるもので口に含んで不快な念のあるは之れは腐敗に傾いて居るのだ、市内に斯ういふ時經た品は餘りないが田舍のラム子には間々見受ける事がある夏季の旅行には尤も注意を要する

▲葡萄ラムネ　葡萄酒は夏の飲料として誰しも好む處から葡萄ラムネが發賣されて居る、之れは普通のラムネへ「ブドウヱッセンツ」(着色料)を加へたもので炭酸瓦斯を稀薄に、腐敗を早める若し葡萄ラムネの栓を拔き罎の口から泡の吹溢れ半分過ぎ出て仕舞うやうなのは無く醗酵性に化した腐敗物で決して飲んではならぬ、故に葡萄ラムネを飲たい場合には葡萄酒をコップへ注いで夫れへラムネを加へれば旨く飲めて危險がないが兎角面倒臭がつて衞生を重んぜず製賣された葡萄ラムネを飲むは氣の知れない事だと思ふ云々

●理髮業者の告諭　警視廳第三部長栗本庸勝氏は此

程府下（三多摩郡を除く）の理髪營業者八十四名に對して左の如く告諭せり

一大學皮膚病院及び其他公私立傳染性疾患（肺病、癩病、梅毒、トラホーム、禿頭病等）病院の報告に依れば患者の系統は十中の九分迄は理髪店より來るものゝ如し故に此際從來の器械消毒法に多少の斟酌を加へ消毒法を嚴重に取行ふべき事

二右消毒法を勵行し理髪業者最後の目的を達せしむる爲めに理髪業者組合を組織するの必要を認むるより當業者は當局者の强制を待たずして自ら進んで設置せられんことを希望す

三當局者は廳令違犯者を作るを好まず故に一應茲に注意を與へ置き是より進んで吏員を派遣し其取締を嚴重にして違反者を見れば毫も假借することなかるべし

●萬國衛生會議出席者　九月一日ブラッセル府に開くべき萬國衛生會議に參列仰付られたる清野書記官は一兩日中に出發西伯利亞線を經て直行する筈なるが柴山技師は既に渡歐中なれば直に電命を傳へられたる由尙ほ滯歐中なる三島文部技師も同會議に參列すといへり

結核豫防施行　東京府の畜牛肺結核豫防法施行は來る九月より開始する由にて主任技手六人と助手にて漸次檢査する筈なるが檢査頭數は大略四千頭以上に上るべしと云へば檢査終了期は來年二三月頃ならんと云ふ

●新製艶の肌あらい粉　本品は多年衛生に從事せる田中隠士（大日本婦人衛生會編輯の一員）の新らたに考案せるものにて其理由とする處は世間に行はるる石鹸は亞爾加里即ソーダの强きもののみ多く顏の如き皮膚の薄きものを保護する目的に叶はない其證據には石鹸ばかりでは决して白粉のよくのらないを見ても分る今日婦人の洗浴には如何なる者を用ゐるかと申せば先づしやぼんを使ひたる後糠を用ゆ糠とても今や全國至る處砂の入らざるものなければヒドく擦りますときは顏に「カサブタ」の出來た

例しもあり又砂入糠の爲め大事の御顔に創をしたと申すことも聞きましたソコで又止むを得ませぬから糠の中に洗ひ粉を入れる、からす瓜を入れる、ふのり、蛇のぬけがら鶯の糞マダ〳〵澤山御座いましやうナント手數のカヽツタ事ではありませぬか
ソコで隱士はドーカ前の樣な手數のかゝらぬもの即ち、しやぼん、も、ぬか、もあらひ粉も其外何にもつかはずに一度に以上の効能のある洗料を造りたいと常に考へて居りましたが此頃大家の説や化學分析に長ぜし人の説を聞き幾度となく試驗しまして貴婦人方の御批評も乞ひ總ての原料を精選して製造することを命じました製造するに方りましては以上の効能の外に色も確實に白くせねばならず皮膚病も防がねばならずあらひ粉にも糠にも使へねばならず發賣人は直段を安く〳〵と隱士は中々の苦しみてあッたそうです其効能便利等の事は本誌報告を參照されよ

●御斷り　哲學博士山口三之助氏より催眠術と分娩に關する大澤博士の批評に對し辯明書を送られたるが斯くては會員にも兩博士の説何れを採用するかに苦しむ譯けなれば總て大家の議論一致するを待ちて掲載することゝなしぬ山口博士に對しては誠に御氣勞之段を鳴謝する處なり



大日本婦人衛生會記事

●本會八月九日例會は炎暑中に付休會致し候

●寄送雜誌

一獨逸衛生週報　一冊

高橋博士夫人ルイゼ氏は昨年渡歐せられしが獨逸滯在中は本會の景況を同地に於て紹介せられ全國の雜誌に本會役員肖像を掲載せしは全く同夫人斡旋の然らしむるところにして先きに櫻井學士の

寄送せられしも又た此の雜誌なり玆に其厚意を謝す

故横井玉子著

一家庭料理法　全一冊

本書は故横井玉子女史が多年の經驗上より四季折々の日本西洋もしくは折衷料理を輕便親切に書かれたるものにして開卷美事なる數葉の硝子版ありて横井時雄より紀念のため寄送せられたる有益の册子なり發兌元は東京神田なる富山房合資會社なり

弔詞

本會贊成員松住臨太郎君は臺灣にありて本會々員誘導の事に盡力せられしが本月病氣のため遠逝せられ又茨城贊成員鈴木眞君通常會員矢口とり子の三氏は此程永眠せられたり

本會は謹みて哀悼の意を表す

新潟支會の美擧

●海水浴場設置

當新潟市は此に日本海を受け天然の海水浴場として恰好の地利を有しながら未だ適當の設備なきが爲め之を利用すると能はず實に遺憾少からず本支會之を憂ひ本年五月以來海水浴場設置の事を企畫し新潟市衞生會と相計り寄居濱浦に於て海水浴場を設置す面積凡そ五百坪餘の海面の四方に網圍を爲して危險を防ぎ拾五坪餘の假小屋を設けて休憩所と爲し別に市中より之に通ずる道路に長四町巾貳尺餘の板道を敷き熱砂を跋渉するの困難を尠なし以て海水浴を容易ならしめたり是に於て去月三十日開場式を執行せり始めに會長小柴きく子の開會の辭あり高橋辰五郎氏海水浴場設置の經過を述べ次に澁川醫學士の海水浴に關する談話あり來賓長井千尋氏及折柄來港中の下田歌子女史の祝詞あり幹事和田くに子閉會の辭を述へて式を終る式後茶菓を供し餘興に市音樂隊の奏樂及網引等あり會するもの男女合せて凡そ三百餘

名頗る盛會なりき

●新潟支會七月例會

七月六日午後二時より新潟市西堀通長善寺に於て通常會開催左の講話あり出席者四拾餘名

一疾病不治症に二二衛生法　講師　澁川正男君
一海水浴の話　講師　長谷川寛治君
以上

●茨城支會七月例會

去月十二日茨城婦人協會及婦人衛生會は豫期の如く午前九時より高等女學校內に開かれその順序は左の如く午後四時閉會出席員八十人許りなりしと

米國リンコルンノ家庭談　師範學校教諭　田口君
婦人衛生　贊成員　秋元洸二君
繃帶實施法　醫學士　波多野病院長

當八月は炎署中に付休會するといふ

●宇都宮支會六月例會

六月廿一日下野中學校內に於て午後一時より例會を開く會員及同伴共にて七十餘名來會し總會の節役員の改撰並に庶務の報告等延期せしにより當日之を行ひしに役員は大多數にて左の如く決せりといふ

會長　小田切とわ子
副會長　古口とみ子

當日は客員として下野中學校長船田兵吾氏其他の有益なる講話あり午後四時閉會せりといふ講演左の如し

一衛生の秘訣（節慾）　客員　船田兵吾君
一夏時衛生　講師　渡孚貞君
一家庭衛生の注意　講師　中里福次郎君

●高崎支會七月報告

七月五日（第一日曜）高崎支會の例會を同市高等小學校內に開らく午後一時開會特別贊成員横井忠國君は幹事に代て先つ入會者を紹介し次て「遊戲運動に就て」と題し心身運動の衛生上に於ける効果と運動には趣味あるを可とする理由とを叙し我會員實行的衛生の一手段として自今每例會に於て學理を參酌せる有益にして且つ樂みある遊戲運動を開始する役員會の決議事項を敷演す第二席莊司森之助君は「血族婚姻の弊害」と題し婚姻の定義より我邦古來の風習及ひ家居交際の狀態は血族結婚成立の一原因たらん

と論定し次で從來諸學者は世の病者中に就て血族婚姻の害惡を證明したりしも演者は尙一歩を進め社會一般の狀況を確むる爲め往年徵兵檢查の好機に際し總檢查人員一萬二千〇四十三名の壯丁中より三百六十一名の血族間產生者を得たるを以て之を親等と病類に分ち調査せしに畸形不具痴呆聾啞精神病癲癇眼病等の多數なりし事實に豫想外なる實例を一々統計に示して其弊害の驚く可く恐る可き事を詳說し結句三親等は勿論四、五親等間の結婚は絕對的に禁止するを望むと結論せられ前會高草木君の夜盲症なる講話と兩々相對し大に配偶撰定上に利益と感動を與へられたり

之より會員(贊成員を除く)は唱歌室に集り三橋齋藤兩幹事及其他役員斡旋の下に歡呼笑聲の裡遊戲運動を爲して復席す

第三席水谷梅次郞君は「夏の飲料」と題し先づ飲料に就ての一般生理的作用より夏期に於ける消食器の注意並に熱身に冷飲の害等を汎論し次で氷、水、茶、珈琲、麥湯、ラムネ、蜜柑水、肉桂水、薄荷水等の利害を各別に詳說し殊に市中販賣店裏面の實況を演て其不潔と危險とを警告せられたるには一同膽を寒からしめたり次で炭酸飲料及「リモナーヂ」の自宅に於ける簡易製造法より器物の撰擇及清洗法、煮沸水の仕方、砂糖精法等を懇に說明して來會者へ其方書一枚宛を分配し尙且卽席に之を調製して會衆一同に隨意飲用を試ましめ大に家庭實用經濟的夏期衞生に裨益を與へられたり第四席特別贊成員秋田聰太郞君は土谷幹事に代りて本年は暑中も休會せざる理由並に入會者に對する雜誌及規則書に就ての注意を爲し午後四時三十分閉會

●山形支會七月例會

七月十一日第二土曜日午後一時より山形女子師範學校に開く會員及學生の來會者凡百五十名左の講話橫山ちよ子外二名の琴曲、及戶外運動(ロンテンス)おりて午後五時閉會せりと

姙娠時の衞生に就て　醫學士　瀨川鎌太郞

寄生蟲の話　北島小太郞

●本會入會者

○愛媛矢能いま子紹介
愛媛縣松山市柳井町六十三番戸　通常會員　伊藤ちよう子

○臺灣松住臨太郎君紹介
臺灣臺北書院街一丁目谷口病院内　通常會員　德永きく子

○仝所　通常會員　德永ゆり子

○事務所へ申込
●讃岐國香川郡東濱村松島三丁目三〇六　賛成員　小川仲明君
●京都市姉小路通堺ヶ町京都府産婆學校内　通常會員　勝岡すみ子
●岡山縣苫田郡二宮村池上靜五郎氏方　通常會員　折江よし子
●福岡醫科大學内　通常會員　坂田正穂子
●神田區小柳町十九高山氏方　通常會員　横内百子

○事務所増田氏紹介
●日本橋區川瀨石町十七、　通常會員　加藤ゑん子

○久保よりえ子紹介
愛媛縣新居郡新所濱櫻浦　通常會員　梶浦信子

○本會濱尾副會長紹介
●小石川區久堅町三十八番地　特別會員　男爵夫人　野村すみ子

○長野宮田熊君紹介
長野縣高井郡平穏村　通常會員　山本つね子

○宮城佐村みき子紹介
宮城縣角田町窪町　通常會員　室伏清子

茨城支會入會者

○副會長豐田英雄子紹介
水戸市上市長町　特別會員　寺原まつ子

●新潟支會入會者

○幹事和田くに子紹介
●學校町二番町　通常會員　寺岡よつ子
●下大川前通　支部中種ヨリ變更　通常會員　山崎しげ子
●學校町二番町　通常會員　大宮みつ子

○幹事田中ぬい子紹介
●醫學校町　支部中種ヨリ變更　通常會員　牧野なか子
●新潟市　通常會員　杉村しづ子
●新潟市　通常會員　鈴木みて子
●本會ヨリ轉入　特別會員　太刀梅子

○菅井ひさ子紹介
●新潟市　通常會員　長谷川ゆう子
●新潟市　通常會員　長谷川こと子
●新潟市　通常會員　三浦しげ子
●新潟市　通常會員　安孫子よう子

○堺しか子紹介
●新潟市　通常會員　井出けさ子

○紺野さだ子紹介

●新潟市　通常會員　友田ため子

○事務所へ申込

●群馬縣群馬郡多々良村大字木戸　通常會員　飯島とめ子

●麹町區飯田町六ノ三　通常會員　山口雪子

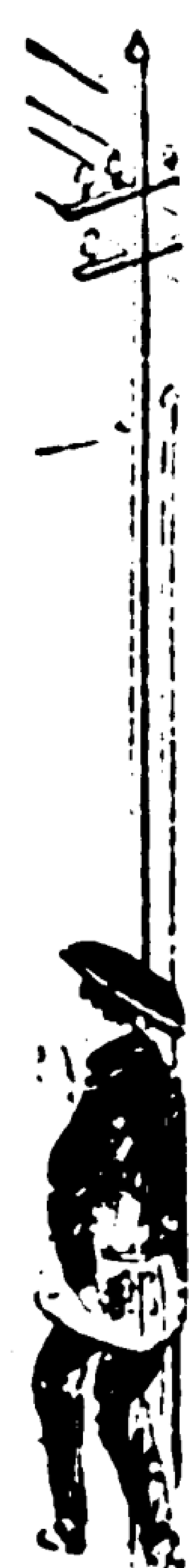
○特別贊成員橫井忠國紹介
高崎支會入會者

●高崎市龍見町百十九番地　通常會員　三宅かい子

●仝市新田町五十二番地　通常會員　野口いの子

○高崎支會評議員稻垣壽々子紹介
本會入會者

東京府下北豐島郡王子村王子十五　通常會員　廣瀨まさ子



轉居

▲會諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●北海道札幌區二條東四丁目六番地伊藤氏方へ
●靜岡縣榛原郡川崎町靜波二四七四へ
●府下南葛飾郡龜戸三九〇一へ
●信州諏訪郡上諏訪町字北本町九〇四橋瓜氏方へ
●門司市小丸山千十九番地郵船會社々宅へ
●麹町區富士見町四ノ一へ
●北海道函館區大森町八
新川病院屋敷内救護院中へ
●丹後國與謝郡宮津町字安智へ
●赤坂區靈南坂町二十番地へ
●相州鎌倉扇ヶ谷へ
●山形縣酒田出町十一へ
●群馬縣甘北樂郡少幡村十四〇
●北海道札幌苗穗村十八へ

大木うん子
名波なを子
鈴木起代子
棟居百世子
松田順子
戸塚てつ子
一田こう子
牛窪操子
山際はる子
藥谷保子
家坂みよの子
岸美奥子
若林かめ子

●臺南廳安平支廳内へ
●大阪市南區北桃谷町三〇四へ
●伊豆國三宅島神着村廿五へ
●小石川區原町百三十三、第四號へ
●牛込區東五軒町五十二へ
●神田區駿河台西紅梅町五へ
●牛込區甲良町三十五へ
●麹町區元園町二ノ九へ
●牛込區矢來町四番地第一號へ
●京橋區築地三ノ十五へ
●長崎市西山五九へ
●赤坂區新町二丁目十五へ
●群馬縣前橋市連雀町三十へ
●臺灣南投廳へ
●神田區五軒町十九、英盛堂内へ

西垣うの子
國分峯子
小野すゞ子
柳橋とや子
曾根すん子
島橋清子
杉本かれ子
渡邊てろ子
伴ふし子
眞田幹子
美島富子
尾花よし子
飯塚けい子
廣瀨しげ子
三柴ふじ子

高崎支會より轉出

●牛込區二十騎町十七番地へ　葉司駒子
●新潟縣越後國新發田步兵第十六聯隊高野少佐方へ　高野農子
●千葉縣へ　中川けい子
●靜岡縣へ　鈴木清子

●交換寄贈雜誌（七月分）

●日本赤十字　京橋區南傳馬町一ノ七　日本赤十字發行所
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會事務所
●おんな　麹町區下二番町卅七　大日本女學會
●大坂醫學會雜誌　大坂市東區淡路町一ノ卅八　大阪醫學會
●教育實驗界　本郷區川町一　育成會
●通俗衛生　大坂西區土佐堀通三ノ廿九　大阪私立衛生會事務所
●大日本婦人教育會雜誌　赤坂表町二ノ三　大日本婦人教育會事務所
●藥學雜誌　牛込區新小川町二ノ八　日本藥學會事務所
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行
●婦人世界　大坂南區末吉橋通四ノ六一　浪華婦人會
●產科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　產科婦人科學雜誌事務所
●佛教文藝　淺草區新谷町十　佛教社
●學校衛生　芝區南佐久間町二ノ十八　學校衛生研究會
●經濟新報　麹町區永田町一ノ七十三　經濟新報編輯部
●中外藥新聞　神田區小川町一　中外藥報社
●婦人新聞　牛込區五軒町四十一　婦女新聞社

●愛國婦人　麹町區下二番町三十七　愛國婦人發行所
●藥石新報　大坂西區江戸堀下通三ノ三六　藥石新報社
●工手の母　大坂北區西野田所家四の町　工手の母新聞社
●草業新聞　大坂南區心齋橋通　草業新聞社
●山梨衛生週報　甲府市代官町廿六　山梨衛生週報社
●防長醫事　山口縣吉敷郡山口町錢湯小路　防長醫事社
●家庭新聞　熊本市新坪井町廿三　家庭新聞社
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●農產時報　府下豐多摩郡淀橋町　農產商會
●日本女學生　本郷區東片町百三十三　日本女學生會
●工業雜誌　京橋區尾張町一ノ一　工業雜誌社
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村　帝國婦人協會
●衛生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衛生會
●京濱實業新報　神田區北神保町八　京濱實業新報社
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●體育　麹町區飯田町貳丁目　日本體育會
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町　大日本私立衛生會
●婦人新報　赤坂區榎坂町　婦人新報社
●產婆學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產婆學協會
●廣島醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社
●越佐教育雜誌　新潟市寺裏通　越佐教育雜誌社
●白梅　神田區錦町三ノ一　大日本基督教婦人矯風會
●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳內　新潟縣衛生社
●婦人　神戸市三ノ宮町一丁目　婦人協社
●日本衛生新聞　神田區錦町三丁目　日本衛生新聞社
●中外藥報　神田區小川町一　中外藥報社
●ひじり恭門寶鑰　愛知縣岡崎町菅生番外　滋賀堂發行所



東京衞生試驗所御試驗出願中



四合入 一箱定價拾錢

東京市牛込通寺町三十八番地

製造發賣元 **松壽堂**

尚追ゝ大箱二拾錢・特別製三拾錢の者及小袋迄調製可仕候尚詳くは別紙製造の理由御覽願升

艶の肌功用

志やぼんいらず 此品は衞生に適ひたる種々の原料にて造りし**志やぼん**ト**ぬか**ト**あらい粉**を兼ねたる者にて其上左の効用ある改良あらい粉也

あれぬこと 此品は悪しきしやぼんの如く肌のあれることなく御使用後は**すべ〳〵**として色つやをよくし**おしろい**ののり最もよろし

・色白くなる 此品の内には色を白くする薬を多く用ゐたれば常に御用ゐなれば「**キメ**」細かに**色白く**なること**確實**にして世間ありふれたるものゝ比にあらず

こうのう 此品は種々よき製方を用ゐたれば「**ニキビ**」「**ソバカス**」「**アセモ**」又は「**あかんぼ**」の湯あみに用ゐ尤もよろし此品は普通のあらい粉の如く容易に**くさる**ことなきは又一種の特色なり

ねこにならぬ

用法と經濟 此品はすべて普通てうすぬかの如く適宜**ぬか**袋に入れ御用ゐの方**効能**多きも普通のあらひ粉の如く少しづゝ御用ゐになれば其**徳用**なること世間に類なく又**旅行用**又**御つかい物**等に尤も適す又油手には此品少しを手のひらにのせ洗はるべし

御注意 御買ひ求めの節は商標（**へちま印**）に御注意を乞ふ

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは 役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには 本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては 特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市學校町二番町四十七
和田くに子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き 講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは 其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會々費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ綿布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

明治三十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會并に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●六月以降徽章料改正

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黑塗箱入 送費九錢）　六十錢（桐箱入 送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數に應じ本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸、四　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中鶴三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智

明治三十六年八月廿三日印刷及發行（毎月一回十五日發行）

婦人衛生雜誌第百六拾五號

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所　株式會社秀英舍第一工場